

平成26年度 文部科学省委託研究  
「学校体育活動における指導の在り方調査研究」

# 運動部活動の指導・運営と指導者養成に関する 調査報告書

平成27年3月

文教大学



## はじめに

本報告書は、平成 26 年度文部科学省委託研究「学校体育活動における指導の在り方調査研究」として行った「運動部活動の指導・運営と指導者養成に関する調査」と「運動部活動の支援と指導者養成に関する研究会」の報告書である。

運動部における体罰や暴力に関する調査は、その発生件数や事例、経験などについては進められてきたが、指導者の資質や研修、支援、労働環境などについてはほとんど焦点が当てられていない。また、運動部の管理体制や保護者との協力関係などにも検討が加えられていない。いくつかの大学や学協会では、指導者の資質能力を育成するために、教員養成課程や教員免許状更新講習、現職研修で実施する教育プログラムの開発に取り組んでいるが、このプログラムを現場の指導者のニーズに応じた、実効性のあるものにするためには、研修や管理体制などの現場の実情把握と意見聴取が必要である。

そこで、そのニーズを把握するために全国の中学校と高等学校の合わせて 2,000 校 4,000 名を対象にして平成 26 年 9 月に質問紙調査を実施した。2,232 名から回答が得られ、それを分析した結果、教員養成課程の授業に必要とされる項目と教員免許状更新講習や現職研修で重要と推察される項目が異なることが明らかになった。

そして、この結果を踏まえて、「運動部活動の支援と指導者養成に関する研究会」を平成 26 年 11 月に開催し、研究者と中体連と高体連の代表者が一堂に会し、目下の課題である具体的な教育プログラムについて検討した。そこでは、日本体育学会が検討している教育プログラム案にそって立案された大阪体育大学の授業科目のシラバス案が提示された。また、宮城教育大学で行っている教員免許状更新講習での実践例についても報告があった。

運動部活動の指導者養成プログラムは、教員養成課程の授業や教員免許状更新講習などこれから多くの大学で開講されることと思われる。その際に、本報告書が基礎資料として活用されることを期待する。末筆ながら、質問紙調査に回答してくださった教員と研究会に参加してくださった学校関係者、研究者の皆さまに感謝申し上げます。

平成 27 年 3 月 1 日

文教大学国際学部	小林勝法
文教大学教育学部	佐藤正伸
鹿屋体育大学	佐藤 豊

## 目 次

### 運動部活動の指導・運営と指導者養成に関する調査

I. 調査目的と方法	1
II. 調査結果	2
1. 全体傾向	2
2. 個人属性による違い(1)：年齢層による違い	4
3. 個人属性による違い(2)：学校種による違い	11
4. 個人属性による違い(3)：担当教科による違い	17
5. 個人属性による違い(4)：指導種目の競技経験による違い	22
6. 総括	28
調査票	29
調査協力者への報告書	32

### 運動部活動の支援と指導者養成に関する研究会

開催報告	37
配付資料	40

## **運動部活動の指導・運営と指導者養成に関する調査**

## I. 調査目的と方法

### 1. 調査目的

学校で行われる体育指導は、学指導要領（総則1の3）の記述を持ち出すまでもなく、学校教育活動全体を通じて行われており、また、そうあるべきものである。その一環である運動部活動は、学校の教育課程外の活動であるが、中学校では、平成20年の学習指導要領の総則第4の2(13)において、高等学校では、平成21年の学習指導要領の総則第5款の4(13)において、「（部活動は）学校教育の一環として教育課程との関連が図られるよう留意すること」と明記された。言うまでもなく、「課外活動であるから、何でもあり」ではなく、正に「学校教育の一環として」適切に実施されなければならない。そこで、運動部活動指導者の指導力育成のため、大学が実施する講義（教職課程履修学生対象）や講習（現職教員対象）の内容を講じる際の基礎資料を得るため、本調査を実施した。

### 2. 調査方法

#### 1) 質問項目の内容

運動部活動指導者の指導力育成のための講義や講習の内容を考察するため、「指導に必要な知識など」や「運動部で実施すべき指導」などについて、文部科学省が提示した運動部活動の指導方針（「みんなでつくる運動部活動」（1999）、「運動部活動の在り方に関する調査研究報告書」（2013）など）から内容を抽出した。具体的な項目は以下の15項目である。

- ①担当する運動部のスポーツ種目の基礎的な知識
- ②生徒の発達段階や成長に応じた指導法
- ③生徒の性差に応じた指導法
- ④トレーニング計画を考えたり、指導する際の基礎となる科学的知識
- ⑤安全管理や事故防止、危機管理の方法
- ⑥生徒が主体的に自立して取り組む力を育成する指導法
- ⑦生徒間の人間関係形成やリーダー育成などの集団づくりの方法
- ⑧厳しい指導と許されない指導の区別
- ⑨生徒のニーズや意見を反映させた目標と計画
- ⑩学校組織全体で運動部活動の目標や指導の在り方を考えること
- ⑪目標や方針等について、保護者や関係者に説明すること
- ⑫外部指導者等の協力や連携による指導体制の方法
- ⑬運動部指導の自己点検・評価の方法
- ⑭指導者の感情コントロールやストレス・マネジメント
- ⑮指導力向上のために学校内外での研修や研究

#### 2) 質問の方法

前記の通り、調査は「講義」内容および「講習」内容を講じるための資料を得ることを目的としている。そこで、前者（講義）については、「大学で学ばせる必要はどの程度ありますか」という問いを実施した。言うまでもなく、実際に運動部活動指導に携わる教員に対するこの問いの結果から、指導者力育成に必要な講習内容を類推する。一方、後者（講習）については、「貴校では、どの程度実現できていますか」という問いを実施した。すなわち、運動部指導現場の実態を顧みること、指導者力育成に必要な講習内容を類推する。

### 3) 調査の実施方法

アンケート調査は郵送により配布と回収を行った(平成26年9月上旬に配布し、10月10日を期限として回収)。配布(調査)対象は、中学校1,300校、高等学校700校(ともに全校数の約15%)で、各校2名に回答を依頼した(計4,000名に依頼)。なお、回答は2,232部であった(4,000を母数とすると回収率は55.8%)。回答者の属性は下表の通りである。

表 回答者の属性

項目	属性	%	実数
性別	男性	79.4	1771
	女性	20.6	460
年代	20歳代	26.3	587
	30歳代	32.9	734
	40歳代	21.1	471
	50歳代	19.2	429
	60歳代	0.4	9
指導学校種	中学校	60.5	1349
	高等学校	39.1	873
	中等・中高一貫	0.4	9
担当教科	保健体育科	56.0	1220
	保健体育科以外	44.0	958
指導種目の競技経験	あり	76.4	1703
	なし	23.6	525
指導年(平均/標準偏差)		13.1	10.1

## II. 調査結果

### 1. 全体傾向

#### 1) 「大学で学ぶ必要」について：教職課程履修学生向けの講義内容の検討

下表は「各事項を『大学で学ぶ必要』」の回答結果である(調査項目は前出を参照)。表中では、最右行に「5.必要」の回答割合の序列(多い順)を示している。

表 「大学で学ぶ必要」の全体傾向

	1.必要ない		2.あまり必要ない		3.どちらとも言えない		4.少し必要		5.必要		「5」の多い順序
	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	
項目①	3.9	87	8.5	189	12.9	288	24.2	539	50.4	1121	5
項目②	1.2	27	3.0	67	8.0	178	27.1	605	60.7	1354	3
項目③	2.1	46	6.0	134	15.7	350	31.1	691	45.1	1004	7
項目④	1.2	27	3.8	85	10.2	228	32.8	732	51.9	1158	4
項目⑤	0.6	13	1.8	40	4.5	101	19.8	442	73.3	1634	1
項目⑥	1.4	31	4.8	107	17.7	395	32.4	722	43.7	973	8
項目⑦	1.2	26	4.1	91	14.6	326	33.4	745	46.8	1043	6
項目⑧	1.8	41	3.1	69	8.2	182	21.4	477	65.5	1458	2
項目⑨	2.8	62	8.0	179	24.9	556	32.9	733	31.4	699	11
項目⑩	4.5	100	12.1	270	26.1	582	31.2	696	26.1	581	12
項目⑪	4.5	101	11.7	261	26.1	581	32.9	734	24.7	551	14
項目⑫	4.1	91	12.7	282	26.9	598	34.1	760	22.3	496	15
項目⑬	3.5	78	8.9	199	28.6	637	34.1	760	24.8	553	13
項目⑭	2.2	50	4.9	110	15.2	338	35.0	780	42.7	952	9
項目⑮	4.4	97	7.9	175	23.2	517	32.3	721	32.3	719	10

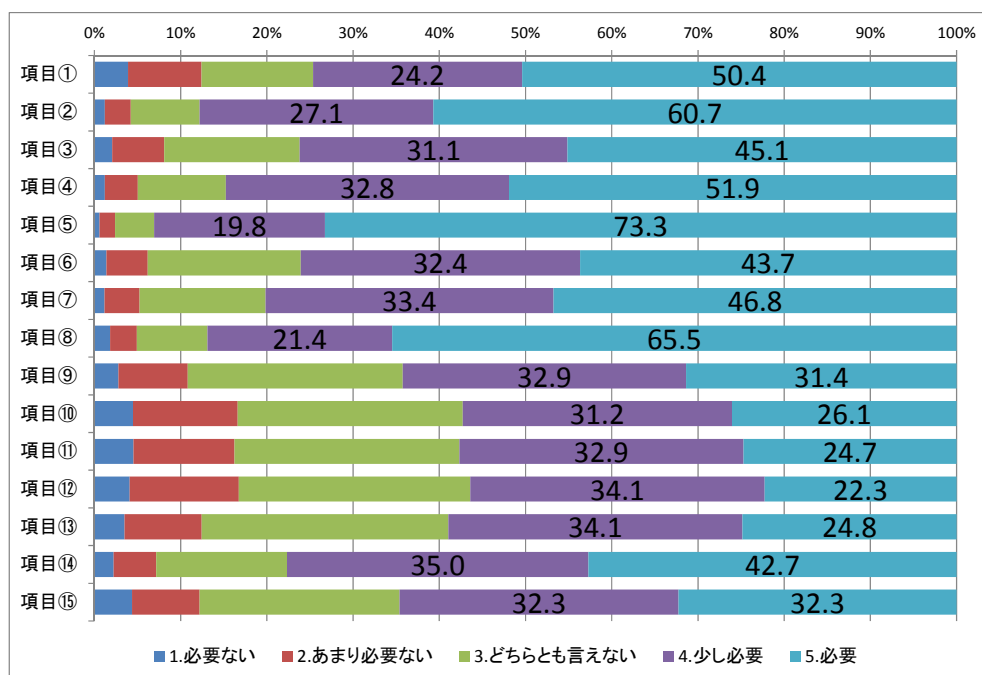


図 「大学で学ぶ必要」の全体傾向

その結果、全体的に肯定的（「4. 少し必要」「5. 必要」）な回答が多かった。肯定的な回答の多い上位3項目は以下であった。

- ⑤安全管理や事故防止、危機管理の方法
- ⑧厳しい指導と許されない指導の区別
- ②生徒の発達段階や成長に応じた指導法

また、「5. 必要」の回答が50%を超えた項目は、上記3項目の他、以下の2項目であった。

- ①担当する運動部のスポーツ種目の基礎的な知識
- ④トレーニング計画を考えたり、指導する際の基礎となる科学的知識

以上から、これらの内容が教職課程履修学生向け講義内容の中核になる可能性があると考えられる。

## 2) 「実現できている程度」について：現職教員向けの講習内容の検討

下表は、「各事項が『実現できている程度』」の回答結果である。表中では、最右行に「5. できている」の回答割合の序列（少ない順）を示している。

その結果、否定的な回答（「1. できていない」「2. あまりできていない」）の多い上位3項目は以下であった。

- ⑬運動部指導の自己点検・評価の方法
- ⑫外部指導者等の協力や連携による指導体制の方法
- ④トレーニング計画を考えたり、指導する際の基礎となる科学的知識

また、肯定的な回答（「4. だいたいできている」「5. できている」）が50%を超えない項目（運動部指導の現場で、何らかの課題があると推察される状況）は、上記3項目の他、以下の3項目であった。

- ⑩学校組織全体で運動部活動の目標や指導の在り方を考えること
- ⑭指導者の感情コントロールやストレス・マネジメント
- ⑮指導力向上のために学校内外での研修や研究

以上から、これらの内容が現職教員向け講習内容の中核になる可能性があると考えられる。



表 「実現できている程度」の全体傾向

	1.できていない		2.あまりできていない		3.どちらとも言えない		4.だいたいできている		5.できている		「5」の 少ない順序
	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	
項目①	2.3	51	10.6	235	23.9	531	51.3	1141	12.0	268	12
項目②	1.5	33	9.7	215	27.8	619	50.4	1121	10.6	235	9
項目③	1.8	40	8.1	181	32.5	722	45.9	1020	11.7	259	11
項目④	3.1	69	20.8	463	39.1	869	32.2	716	4.7	105	2
項目⑤	0.6	14	4.4	97	13.3	296	54.1	1203	27.5	612	14
項目⑥	1.6	35	10.8	241	36.0	801	43.3	963	8.2	183	5
項目⑦	1.3	29	9.5	211	32.3	717	46.6	1036	10.3	229	8
項目⑧	0.4	10	2.2	50	10.4	232	40.1	893	46.7	1040	15
項目⑨	1.4	32	8.4	187	39.2	872	41.8	929	9.2	204	7
項目⑩	5.0	111	15.6	346	32.4	721	36.4	810	10.6	235	9
項目⑪	2.5	55	10.4	231	26.7	594	44.4	987	16.1	358	13
項目⑫	8.7	194	20.4	455	38.3	853	25.7	571	6.9	153	3
項目⑬	5.8	128	19.8	440	43.6	969	26.7	595	4.2	93	1
項目⑭	3.6	80	14.9	331	37.8	843	35.3	787	8.4	187	6
項目⑮	7.5	167	20.6	458	37.7	840	26.4	587	7.9	175	4

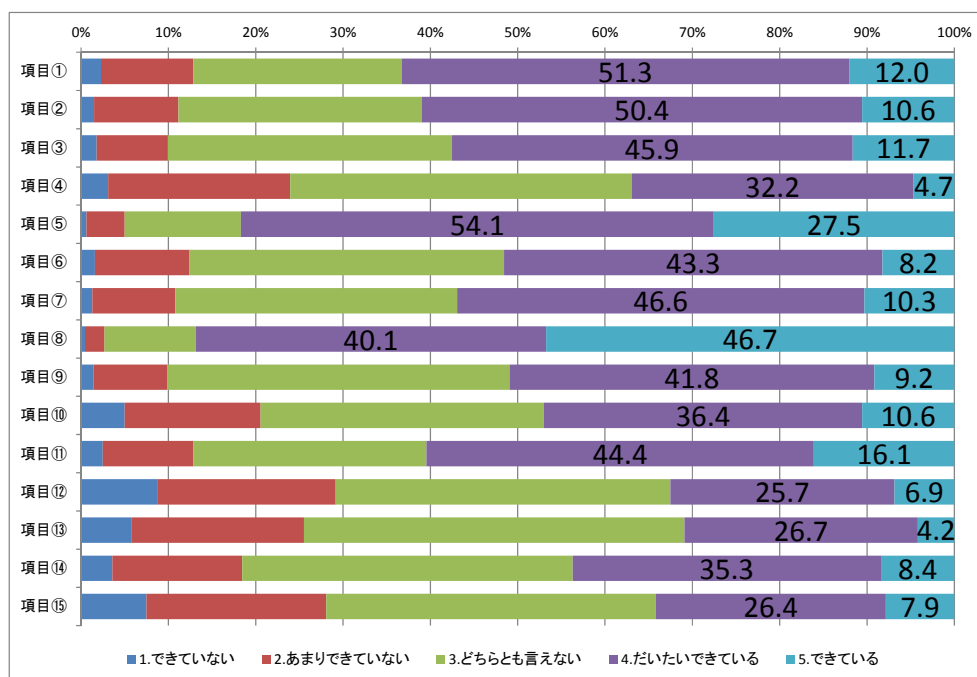


図 「実現できている程度」の全体傾向

## 2. 個人属性による違い (1) : 年齢層による違い

### 1) 「大学で学ぶ必要性」との関連

以下は、回答者の年齢層の違いによる、「大学で学ぶ必要性」に対する回答の差異を、独立性検定によって検証した結果である。年齢層は、「20 歳代」「30 歳代」「40 歳代」「50 歳代」「60 歳代」の 5 選択肢から回答を求めたが、「60 歳代」が少なかったことから、本分析では割愛した。また、統計分析 (カイ二乗検定) 実施上の都合から、5 件法で測定した「必要性」について、肯定的な 2 回答と否定的な 2 回答をそれぞれ一括し「必要ない (否定群)」「どちらとも言えない」「必要 (肯定群)」の 3 群に分類した (以下、同じ)。

結果、二変数間の関連性に有意水準が認められた項目は、以下の 2 項目であった。

⑫外部指導者等の協力や連携による指導体制の方法

⑭指導者の感情コントロールやストレス・マネジメント

いずれの場合も、高齢の年齢層の方が「必要」とする回答割合が多く、すなわち、高齢の指導者ほど、当該の内容を「学生の頃に学んでおくべき」と考えていることがうかがえる。

①担当する運動部のスポーツ種目の基礎的な知識（学ぶ必要×年齢層）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
年齢層	20歳代	実数	71	70	445	586
		%	12.1%	11.9%	75.9%	100.0%
	30歳代	実数	110	96	524	730
		%	15.1%	13.2%	71.8%	100.0%
	40歳代	実数	49	66	355	470
		%	10.4%	14.0%	75.5%	100.0%
	50歳代	実数	46	55	326	427
		%	10.8%	12.9%	76.3%	100.0%
合計		実数	276	287	1650	2213
		%	12.5%	13.0%	74.6%	100.0%

N.S.

②生徒の発達段階や成長に応じた指導法（学ぶ必要×年齢層）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
年齢層	20歳代	実数	24	57	506	587
		%	4.1%	9.7%	86.2%	100.0%
	30歳代	実数	30	51	652	733
		%	4.1%	7.0%	88.9%	100.0%
	40歳代	実数	22	38	411	471
		%	4.7%	8.1%	87.3%	100.0%
	50歳代	実数	18	32	379	429
		%	4.2%	7.5%	88.3%	100.0%
合計		実数	94	178	1948	2220
		%	4.2%	8.0%	87.7%	100.0%

N.S.

③生徒の性差に応じた指導法（学ぶ必要×年齢層）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
年齢層	20歳代	実数	44	101	441	586
		%	7.5%	17.2%	75.3%	100.0%
	30歳代	実数	67	114	552	733
		%	9.1%	15.6%	75.3%	100.0%
	40歳代	実数	43	75	352	470
		%	9.1%	16.0%	74.9%	100.0%
	50歳代	実数	26	60	339	425
		%	6.1%	14.1%	79.8%	100.0%
合計		実数	180	350	1684	2214
		%	8.1%	15.8%	76.1%	100.0%

N.S.

④トレーニング計画を考えたり、指導する際の基礎となる科学的知識（学ぶ必要×年齢層）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
年齢層	20歳代	実数	44	59	484	587
		%	7.5%	10.1%	82.5%	100.0%
	30歳代	実数	33	78	622	733
		%	4.5%	10.6%	84.9%	100.0%
	40歳代	実数	19	48	404	471
		%	4.0%	10.2%	85.8%	100.0%
	50歳代	実数	16	41	371	428
		%	3.7%	9.6%	86.7%	100.0%
合計		実数	112	226	1881	2219
		%	5.0%	10.2%	84.8%	100.0%

N.S.

⑤安全管理や事故防止、危機管理の方法（学ぶ必要×年齢層）

		必要ない	どちらとも言えない	必要	合計	
年齢層	20歳代	実数	13	29	544	586
		%	2.2%	4.9%	92.8%	100.0%
	30歳代	実数	20	39	674	733
		%	2.7%	5.3%	92.0%	100.0%
	40歳代	実数	15	19	437	471
		%	3.2%	4.0%	92.8%	100.0%
	50歳代	実数	5	14	410	429
		%	1.2%	3.3%	95.6%	100.0%
合計		実数	53	101	2065	2219
		%	2.4%	4.6%	93.1%	100.0%

N.S.

⑥生徒が主体的に自立して取り組む力を育成する指導法（学ぶ必要×年齢層）

		必要ない	どちらとも言えない	必要	合計	
年齢層	20歳代	実数	37	96	453	586
		%	6.3%	16.4%	77.3%	100.0%
	30歳代	実数	52	119	561	732
		%	7.1%	16.3%	76.6%	100.0%
	40歳代	実数	25	91	355	471
		%	5.3%	19.3%	75.4%	100.0%
	50歳代	実数	24	87	317	428
		%	5.6%	20.3%	74.1%	100.0%
合計		実数	138	393	1686	2217
		%	6.2%	17.7%	76.0%	100.0%

N.S.

⑦生徒間の人間関係形成やリーダー育成などの集団づくりの方法（学ぶ必要×年齢層）

		必要ない	どちらとも言えない	必要	合計	
年齢層	20歳代	実数	35	89	463	587
		%	6.0%	15.2%	78.9%	100.0%
	30歳代	実数	39	112	582	733
		%	5.3%	15.3%	79.4%	100.0%
	40歳代	実数	28	68	375	471
		%	5.9%	14.4%	79.6%	100.0%
	50歳代	実数	15	56	358	429
		%	3.5%	13.1%	83.4%	100.0%
合計		実数	117	325	1778	2220
		%	5.3%	14.6%	80.1%	100.0%

N.S.

⑧厳しい指導と許されない指導の区別（学ぶ必要×年齢層）

		必要ない	どちらとも言えない	必要	合計	
年齢層	20歳代	実数	34	54	498	586
		%	5.8%	9.2%	85.0%	100.0%
	30歳代	実数	40	67	625	732
		%	5.5%	9.2%	85.4%	100.0%
	40歳代	実数	24	34	412	470
		%	5.1%	7.2%	87.7%	100.0%
	50歳代	実数	12	27	390	429
		%	2.8%	6.3%	90.9%	100.0%
合計		実数	110	182	1925	2217
		%	5.0%	8.2%	86.8%	100.0%

N.S.

⑨生徒のニーズや意見を反映させた目標と計画（学ぶ必要×年齢層）

		必要ない	どちらとも言えない	必要	合計	
年齢層	20歳代	実数	70	145	371	586
		%	11.9%	24.7%	63.3%	100.0%
	30歳代	実数	81	191	461	733
		%	11.1%	26.1%	62.9%	100.0%
	40歳代	実数	47	116	307	470
		%	10.0%	24.7%	65.3%	100.0%
	50歳代	実数	42	101	286	429
		%	9.8%	23.5%	66.7%	100.0%
合計		実数	240	553	1425	2218
		%	10.8%	24.9%	64.2%	100.0%

N.S.

⑩学校組織全体で運動部活動の目標や指導の在り方を考えること（学ぶ必要×年齢層）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
年齢層	20歳代	実数	110	147	329	586
		%	18.8%	25.1%	56.1%	100.0%
	30歳代	実数	135	202	396	733
		%	18.4%	27.6%	54.0%	100.0%
	40歳代	実数	69	114	287	470
		%	14.7%	24.3%	61.1%	100.0%
	50歳代	実数	56	113	260	429
		%	13.1%	26.3%	60.6%	100.0%
合計	実数	370	576	1272	2218	
	%	16.7%	26.0%	57.3%	100.0%	

N.S.

⑪目標や方針等について、保護者や関係者に説明すること（学ぶ必要×年齢層）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
年齢層	20歳代	実数	101	159	326	586
		%	17.2%	27.1%	55.6%	100.0%
	30歳代	実数	125	186	422	733
		%	17.1%	25.4%	57.6%	100.0%
	40歳代	実数	75	116	279	470
		%	16.0%	24.7%	59.4%	100.0%
	50歳代	実数	59	118	251	428
		%	13.8%	27.6%	58.6%	100.0%
合計	実数	360	579	1278	2217	
	%	16.2%	26.1%	57.6%	100.0%	

N.S.

⑫外部指導者等の協力や連携による指導体制の方法（学ぶ必要×年齢層）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
年齢層	20歳代	実数	121	160	305	586
		%	20.6%	27.3%	52.0%	100.0%
	30歳代	実数	132	206	395	733
		%	18.0%	28.1%	53.9%	100.0%
	40歳代	実数	67	115	287	469
		%	14.3%	24.5%	61.2%	100.0%
	50歳代	実数	52	115	261	428
		%	12.1%	26.9%	61.0%	100.0%
合計	実数	372	596	1248	2216	
	%	16.8%	26.9%	56.3%	100.0%	

p<0.01

⑬運動部指導の自己点検・評価の方法（学ぶ必要×年齢層）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
年齢層	20歳代	実数	88	160	338	586
		%	15.0%	27.3%	57.7%	100.0%
	30歳代	実数	98	217	417	732
		%	13.4%	29.6%	57.0%	100.0%
	40歳代	実数	49	132	289	470
		%	10.4%	28.1%	61.5%	100.0%
	50歳代	実数	40	124	264	428
		%	9.3%	29.0%	61.7%	100.0%
合計	実数	275	633	1308	2216	
	%	12.4%	28.6%	59.0%	100.0%	

N.S.

⑭指導者の感情コントロールやストレス・マネジメント（学ぶ必要×年齢層）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
年齢層	20歳代	実数	61	90	435	586
		%	10.4%	15.4%	74.2%	100.0%
	30歳代	実数	50	118	565	733
		%	6.8%	16.1%	77.1%	100.0%
	40歳代	実数	28	58	385	471
		%	5.9%	12.3%	81.7%	100.0%
	50歳代	実数	21	68	340	429
		%	4.9%	15.9%	79.3%	100.0%
合計	実数	160	334	1725	2219	
	%	7.2%	15.1%	77.7%	100.0%	

p<0.01

⑮指導力向上のために学校内外での研修や研究（学ぶ必要×年齢層）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
年齢層	20歳代	実数	85	127	375	587
		%	14.5%	21.6%	63.9%	100.0%
	30歳代	実数	84	183	466	733
		%	11.5%	25.0%	63.6%	100.0%
	40歳代	実数	57	101	311	469
		%	12.2%	21.5%	66.3%	100.0%
	50歳代	実数	45	103	281	429
		%	10.5%	24.0%	65.5%	100.0%
合計		実数	271	514	1433	2218
		%	12.2%	23.2%	64.6%	100.0%

N.S.

2) 「実現できている程度」との関連

以下は、回答者の年齢層の違いによる、「実現できている程度」に対する回答の差異を、独立性検定によって検証した結果である。年齢層は、前項と同様に、「60歳代」を割愛した。また、統計分析（カイ二乗検定）実施上の都合から、5件法で測定した「実現できている程度」について、肯定的な2回答と否定的な2回答をそれぞれ一括し「できていない（否定群）」「どちらとも言えない」「できている（肯定群）」の3群に分類した（以下、同じ）。

結果、二変数間の関連性に有意水準が認められた項目は、以下の1項目のみであった。

③生徒の性差に応じた指導法

この場合も、高齢の年齢層の方が「できている」とする回答割合が多く、すなわち、高齢の指導者ほど、当該の内容を「現場では実践できている」と評価していることがうかがえる。

①担当する運動部のスポーツ種目の基礎的な知識（実現の程度×年齢層）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
年齢層	20歳代	実数	81	152	353	586
		%	13.8%	25.9%	60.2%	100.0%
	30歳代	実数	91	173	466	730
		%	12.5%	23.7%	63.8%	100.0%
	40歳代	実数	56	107	308	471
		%	11.9%	22.7%	65.4%	100.0%
	50歳代	実数	56	97	275	428
		%	13.1%	22.7%	64.3%	100.0%
合計		実数	284	529	1402	2215
		%	12.8%	23.9%	63.3%	100.0%

N.S.

②生徒の発達段階や成長に応じた指導法（実現の程度×年齢層）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
年齢層	20歳代	実数	61	184	340	585
		%	10.4%	31.5%	58.1%	100.0%
	30歳代	実数	82	204	441	727
		%	11.3%	28.1%	60.7%	100.0%
	40歳代	実数	50	115	306	471
		%	10.6%	24.4%	65.0%	100.0%
	50歳代	実数	54	115	260	429
		%	12.6%	26.8%	60.6%	100.0%
合計		実数	247	618	1347	2212
		%	11.2%	27.9%	60.9%	100.0%

N.S.

③生徒の性差に応じた指導法（実現の程度×年齢層）

		できていない	どちらとも言えない	できている	合計	
年齢層	20歳代	実数	69	214	303	586
		%	11.8%	36.5%	51.7%	100.0%
	30歳代	実数	65	252	410	727
		%	8.9%	34.7%	56.4%	100.0%
	40歳代	実数	44	131	296	471
		%	9.3%	27.8%	62.8%	100.0%
	50歳代	実数	42	124	261	427
		%	9.8%	29.0%	61.1%	100.0%
合計	実数	220	721	1270	2211	
	%	10.0%	32.6%	57.4%	100.0%	

p<0.01

④トレーニング計画を考えたり、指導する際の基礎となる科学的知識（実現の程度×年齢層）

		できていない	どちらとも言えない	できている	合計	
年齢層	20歳代	実数	150	230	205	585
		%	25.6%	39.3%	35.0%	100.0%
	30歳代	実数	182	279	267	728
		%	25.0%	38.3%	36.7%	100.0%
	40歳代	実数	109	168	192	469
		%	23.2%	35.8%	40.9%	100.0%
	50歳代	実数	88	190	151	429
		%	20.5%	44.3%	35.2%	100.0%
合計	実数	529	867	815	2211	
	%	23.9%	39.2%	36.9%	100.0%	

N.S.

⑤安全管理や事故防止、危機管理の方法（実現の程度×年齢層）

		できていない	どちらとも言えない	できている	合計	
年齢層	20歳代	実数	25	79	482	586
		%	4.3%	13.5%	82.3%	100.0%
	30歳代	実数	36	88	601	725
		%	5.0%	12.1%	82.9%	100.0%
	40歳代	実数	23	67	381	471
		%	4.9%	14.2%	80.9%	100.0%
	50歳代	実数	26	60	343	429
		%	6.1%	14.0%	80.0%	100.0%
合計	実数	110	294	1807	2211	
	%	5.0%	13.3%	81.7%	100.0%	

N.S.

⑥生徒が主体的に自立して取り組む力を育成する指導法（実現の程度×年齢層）

		できていない	どちらとも言えない	できている	合計	
年齢層	20歳代	実数	84	206	295	585
		%	14.4%	35.2%	50.4%	100.0%
	30歳代	実数	90	257	381	728
		%	12.4%	35.3%	52.3%	100.0%
	40歳代	実数	52	164	255	471
		%	11.0%	34.8%	54.1%	100.0%
	50歳代	実数	48	172	208	428
		%	11.2%	40.2%	48.6%	100.0%
合計	実数	274	799	1139	2212	
	%	12.4%	36.1%	51.5%	100.0%	

N.S.

⑦生徒間の人間関係形成やリーダー育成などの集団づくりの方法（実現の程度×年齢層）

		できていない	どちらとも言えない	できている	合計	
年齢層	20歳代	実数	67	195	324	586
		%	11.4%	33.3%	55.3%	100.0%
	30歳代	実数	76	215	437	728
		%	10.4%	29.5%	60.0%	100.0%
	40歳代	実数	48	157	264	469
		%	10.2%	33.5%	56.3%	100.0%
	50歳代	実数	48	146	234	428
		%	11.2%	34.1%	54.7%	100.0%
合計	実数	239	713	1259	2211	
	%	10.8%	32.2%	56.9%	100.0%	

N.S.

⑧厳しい指導と許されない指導の区別（実現の程度×年齢層）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
年齢層	20歳代	実数	14	68	505	587
		%	2.4%	11.6%	86.0%	100.0%
	30歳代	実数	23	71	633	727
		%	3.2%	9.8%	87.1%	100.0%
	40歳代	実数	9	50	412	471
		%	1.9%	10.6%	87.5%	100.0%
	50歳代	実数	14	42	373	429
		%	3.3%	9.8%	86.9%	100.0%
合計		実数	60	231	1923	2214
		%	2.7%	10.4%	86.9%	100.0%

N.S.

⑨生徒のニーズや意見を反映させた目標と計画（実現の程度×年齢層）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
年齢層	20歳代	実数	67	232	288	587
		%	11.4%	39.5%	49.1%	100.0%
	30歳代	実数	75	273	380	728
		%	10.3%	37.5%	52.2%	100.0%
	40歳代	実数	39	194	238	471
		%	8.3%	41.2%	50.5%	100.0%
	50歳代	実数	35	170	222	427
		%	8.2%	39.8%	52.0%	100.0%
合計		実数	216	869	1128	2213
		%	9.8%	39.3%	51.0%	100.0%

N.S.

⑩学校組織全体で運動部活動の目標や指導の在り方を考えること（実現の程度×年齢層）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
年齢層	20歳代	実数	123	190	274	587
		%	21.0%	32.4%	46.7%	100.0%
	30歳代	実数	157	241	331	729
		%	21.5%	33.1%	45.4%	100.0%
	40歳代	実数	95	143	230	468
		%	20.3%	30.6%	49.1%	100.0%
	50歳代	実数	79	143	206	428
		%	18.5%	33.4%	48.1%	100.0%
合計		実数	454	717	1041	2212
		%	20.5%	32.4%	47.1%	100.0%

N.S.

⑪目標や方針等について、保護者や関係者に説明すること（実現の程度×年齢層）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
年齢層	20歳代	実数	78	159	350	587
		%	13.3%	27.1%	59.6%	100.0%
	30歳代	実数	88	202	441	731
		%	12.0%	27.6%	60.3%	100.0%
	40歳代	実数	63	115	290	468
		%	13.5%	24.6%	62.0%	100.0%
	50歳代	実数	56	114	258	428
		%	13.1%	26.6%	60.3%	100.0%
合計		実数	285	590	1339	2214
		%	12.9%	26.6%	60.5%	100.0%

N.S.

⑫外部指導者等の協力や連携による指導体制の方法（実現の程度×年齢層）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
年齢層	20歳代	実数	170	223	192	585
		%	29.1%	38.1%	32.8%	100.0%
	30歳代	実数	208	288	235	731
		%	28.5%	39.4%	32.1%	100.0%
	40歳代	実数	138	174	158	470
		%	29.4%	37.0%	33.6%	100.0%
	50歳代	実数	131	163	135	429
		%	30.5%	38.0%	31.5%	100.0%
合計		実数	647	848	720	2215
		%	29.2%	38.3%	32.5%	100.0%

N.S.

⑬運動部指導の自己点検・評価の方法（実現の程度×年齢層）

		できていない	どちらとも言えない	できている	合計	
年齢層	20歳代	実数	159	241	187	587
		%	27.1%	41.1%	31.9%	100.0%
	30歳代	実数	183	332	212	727
		%	25.2%	45.7%	29.2%	100.0%
	40歳代	実数	113	195	163	471
		%	24.0%	41.4%	34.6%	100.0%
	50歳代	実数	110	196	123	429
		%	25.6%	45.7%	28.7%	100.0%
合計	実数	565	964	685	2214	
	%	25.5%	43.5%	30.9%	100.0%	

N.S.

⑭指導者の感情コントロールやストレス・マネジメント（実現の程度×年齢層）

		できていない	どちらとも言えない	できている	合計	
年齢層	20歳代	実数	118	205	264	587
		%	20.1%	34.9%	45.0%	100.0%
	30歳代	実数	132	277	322	731
		%	18.1%	37.9%	44.0%	100.0%
	40歳代	実数	80	189	201	470
		%	17.0%	40.2%	42.8%	100.0%
	50歳代	実数	78	169	182	429
		%	18.2%	39.4%	42.4%	100.0%
合計	実数	408	840	969	2217	
	%	18.4%	37.9%	43.7%	100.0%	

N.S.

⑮指導力向上のために学校内外での研修や研究（実現の程度×年齢層）

		できていない	どちらとも言えない	できている	合計	
年齢層	20歳代	実数	175	211	201	587
		%	29.8%	35.9%	34.2%	100.0%
	30歳代	実数	206	265	261	732
		%	28.1%	36.2%	35.7%	100.0%
	40歳代	実数	125	177	167	469
		%	26.7%	37.7%	35.6%	100.0%
	50歳代	実数	116	183	129	428
		%	27.1%	42.8%	30.1%	100.0%
合計	実数	622	836	758	2216	
	%	28.1%	37.7%	34.2%	100.0%	

N.S.

3. 個人属性による違い（2）：学校種による違い

1) 「大学で学ぶ必要性」との関連

以下は、回答者の学校種の違いによる、「大学で学ぶ必要生」に対する回答の差異を、独立性検定によって検証した結果である。学校種は、「中学校」「高等学校」「中高一貫／中等教育学校」の3選択肢から回答を求めたが、「中高一貫／中等教育学校」が少なかったことから、本分析では割愛した。

結果、二変数間の関連性に有意水準が認められた項目は、以下の8項目であった。

- ①担当する運動部のスポーツ種目の基礎的な知識
- ③生徒の性差に応じた指導法
- ④トレーニング計画を考えたり、指導する際の基礎となる科学的知識
- ⑨生徒のニーズや意見を反映させた目標と計画
- ⑫外部指導者等の協力や連携による指導体制の方法
- ⑬運動部指導の自己点検・評価の方法
- ⑭指導者の感情コントロールやストレス・マネジメント
- ⑮指導力向上のために学校内外での研修や研究



いずれの場合も、高等学校の方が「必要」とする回答割合が多く、すなわち、高等学校の指導者ほど、当該の内容を「学生の頃に学んでおくべき」と考えていることがうかがえる。

①担当する運動部のスポーツ種目の基礎的な知識（学ぶ必要×学校種）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
学校種	中学校	実数	203	189	952	1344
		%	15.1%	14.1%	70.8%	100.0%
	高等学校	実数	71	99	700	870
		%	8.2%	11.4%	80.5%	100.0%
合計		実数	274	288	1652	2214
		%	12.4%	13.0%	74.6%	100.0%

p<0.001

②生徒の発達段階や成長に応じた指導法（学ぶ必要×学校種）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
学校種	中学校	実数	62	113	1173	1348
		%	4.6%	8.4%	87.0%	100.0%
	高等学校	実数	32	64	777	873
		%	3.7%	7.3%	89.0%	100.0%
合計		実数	94	177	1950	2221
		%	4.2%	8.0%	87.8%	100.0%

N.S.

③生徒の性差に応じた指導法（学ぶ必要×学校種）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
学校種	中学校	実数	123	227	995	1345
		%	9.1%	16.9%	74.0%	100.0%
	高等学校	実数	56	122	692	870
		%	6.4%	14.0%	79.5%	100.0%
合計		実数	179	349	1687	2215
		%	8.1%	15.8%	76.2%	100.0%

p<0.01

④トレーニング計画を考えたり、指導する際の基礎となる科学的知識（学ぶ必要×学校種）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
学校種	中学校	実数	83	168	1097	1348
		%	6.2%	12.5%	81.4%	100.0%
	高等学校	実数	29	59	784	872
		%	3.3%	6.8%	89.9%	100.0%
合計		実数	112	227	1881	2220
		%	5.0%	10.2%	84.7%	100.0%

p<0.001

⑤安全管理や事故防止、危機管理の方法（学ぶ必要×学校種）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
学校種	中学校	実数	36	69	1243	1348
		%	2.7%	5.1%	92.2%	100.0%
	高等学校	実数	17	32	823	872
		%	1.9%	3.7%	94.4%	100.0%
合計		実数	53	101	2066	2220
		%	2.4%	4.5%	93.1%	100.0%

N.S.

⑥生徒が主体的に自立して取り組む力を育成する指導法（学ぶ必要×学校種）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
学校種	中学校	実数	83	246	1016	1345
		%	6.2%	18.3%	75.5%	100.0%
	高等学校	実数	54	147	672	873
		%	6.2%	16.8%	77.0%	100.0%
合計		実数	137	393	1688	2218
		%	6.2%	17.7%	76.1%	100.0%

N.S.

⑦生徒間の人間関係形成やリーダー育成などの集団づくりの方法（学ぶ必要×学校種）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
学校種	中学校	実数	74	191	1083	1348
		%	5.5%	14.2%	80.3%	100.0%
	高等学校	実数	43	133	697	873
		%	4.9%	15.2%	79.8%	100.0%
合計		実数	117	324	1780	2221
		%	5.3%	14.6%	80.1%	100.0%

N.S.

⑧厳しい指導と許されない指導の区別（学ぶ必要×学校種）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
学校種	中学校	実数	67	121	1158	1346
		%	5.0%	9.0%	86.0%	100.0%
	高等学校	実数	42	61	768	871
		%	4.8%	7.0%	88.2%	100.0%
合計		実数	109	182	1926	2217
		%	4.9%	8.2%	86.9%	100.0%

N.S.

⑨生徒のニーズや意見を反映させた目標と計画（学ぶ必要×学校種）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
学校種	中学校	実数	170	365	812	1347
		%	12.6%	27.1%	60.3%	100.0%
	高等学校	実数	69	191	612	872
		%	7.9%	21.9%	70.2%	100.0%
合計		実数	239	556	1424	2219
		%	10.8%	25.1%	64.2%	100.0%

p<0.001

⑩学校組織全体で運動部活動の目標や指導の在り方を考えること（学ぶ必要×学校種）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
学校種	中学校	実数	236	359	751	1346
		%	17.5%	26.7%	55.8%	100.0%
	高等学校	実数	131	221	521	873
		%	15.0%	25.3%	59.7%	100.0%
合計		実数	367	580	1272	2219
		%	16.5%	26.1%	57.3%	100.0%

N.S.

⑪目標や方針等について、保護者や関係者に説明すること（学ぶ必要×学校種）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
学校種	中学校	実数	233	345	769	1347
		%	17.3%	25.6%	57.1%	100.0%
	高等学校	実数	126	234	511	871
		%	14.5%	26.9%	58.7%	100.0%
合計		実数	359	579	1280	2218
		%	16.2%	26.1%	57.7%	100.0%

N.S.

⑫外部指導者等の協力や連携による指導体制の方法（学ぶ必要×学校種）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
学校種	中学校	実数	251	378	716	1345
		%	18.7%	28.1%	53.2%	100.0%
	高等学校	実数	122	218	532	872
		%	14.0%	25.0%	61.0%	100.0%
合計		実数	373	596	1248	2217
		%	16.8%	26.9%	56.3%	100.0%

p<0.01

⑬運動部指導の自己点検・評価の方法（学ぶ必要×学校種）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
学校種	中学校	実数	196	413	739	1348
		%	14.5%	30.6%	54.8%	100.0%
	高等学校	実数	80	224	565	869
		%	9.2%	25.8%	65.0%	100.0%
合計		実数	276	637	1304	2217
		%	12.4%	28.7%	58.8%	100.0%

p<0.001

⑭指導者の感情コントロールやストレス・マネジメント（学ぶ必要×学校種）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
学校種	中学校	実数	117	227	1003	1347
		%	8.7%	16.9%	74.5%	100.0%
	高等学校	実数	43	110	720	873
		%	4.9%	12.6%	82.5%	100.0%
合計		実数	160	337	1723	2220
		%	7.2%	15.2%	77.6%	100.0%

p<0.001

⑮指導力向上のために学校内外での研修や研究（学ぶ必要×学校種）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
学校種	中学校	実数	184	333	830	1347
		%	13.7%	24.7%	61.6%	100.0%
	高等学校	実数	87	182	603	872
		%	10.0%	20.9%	69.2%	100.0%
合計		実数	271	515	1433	2219
		%	12.2%	23.2%	64.6%	100.0%

p<0.01

2)「実現できている程度」との関連

以下は、回答者の学校種の違いによる、「実現できている程度」に対する回答の差異を、独立性検定によって検証した結果である。学校種は、前項と同様に、「中高一貫／中等教育学校」を割愛した。

結果、二変数間の関連性に有意水準が認められた項目は、以下の5項目であった。

- ⑦生徒間の人間関係形成やリーダー育成などの集団づくりの方法
- ⑧厳しい指導と許されない指導の区別
- ⑨生徒のニーズや意見を反映させた目標と計画
- ⑩学校組織全体で運動部活動の目標や指導の在り方を考えること
- ⑪目標や方針等について、保護者や関係者に説明すること

項目によって傾向は異なり、中学校の方が「できている」とする回答割合が多いの⑦、⑩、⑪、高等学校の方が「できている」とする回答割合が多いのが⑧、⑨であった。

①担当する運動部のスポーツ種目の基礎的な知識（実現の程度×学校種）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
学校種	中学校	実数	158	336	850	1344
		%	11.8%	25.0%	63.2%	100.0%
	高等学校	実数	126	191	555	872
		%	14.4%	21.9%	63.6%	100.0%
合計		実数	284	527	1405	2216
		%	12.8%	23.8%	63.4%	100.0%

N.S.

②生徒の発達段階や成長に応じた指導法（実現の程度×学校種）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
学校種	中学校	実数	135	390	817	1342
		%	10.1%	29.1%	60.9%	100.0%
	高等学校	実数	112	225	534	871
		%	12.9%	25.8%	61.3%	100.0%
合計		実数	247	615	1351	2213
		%	11.2%	27.8%	61.0%	100.0%

N.S.

③生徒の性差に応じた指導法（実現の程度×学校種）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
学校種	中学校	実数	124	441	777	1342
		%	9.2%	32.9%	57.9%	100.0%
	高等学校	実数	96	279	495	870
		%	11.0%	32.1%	56.9%	100.0%
合計		実数	220	720	1272	2212
		%	9.9%	32.5%	57.5%	100.0%

N.S.

④トレーニング計画を考へたり、指導する際の基礎となる科学的知識（実現の程度×学校種）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
学校種	中学校	実数	330	534	479	1343
		%	24.6%	39.8%	35.7%	100.0%
	高等学校	実数	200	333	336	869
		%	23.0%	38.3%	38.7%	100.0%
合計		実数	530	867	815	2212
		%	24.0%	39.2%	36.8%	100.0%

N.S.

⑤安全管理や事故防止、危機管理の方法（実現の程度×学校種）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
学校種	中学校	実数	58	172	1112	1342
		%	4.3%	12.8%	82.9%	100.0%
	高等学校	実数	52	124	694	870
		%	6.0%	14.3%	79.8%	100.0%
合計		実数	110	296	1806	2212
		%	5.0%	13.4%	81.6%	100.0%

N.S.

⑥生徒が主体的に自立して取り組む力を育成する指導法（実現の程度×学校種）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
学校種	中学校	実数	162	485	694	1341
		%	12.1%	36.2%	51.8%	100.0%
	高等学校	実数	114	313	445	872
		%	13.1%	35.9%	51.0%	100.0%
合計		実数	276	798	1139	2213
		%	12.5%	36.1%	51.5%	100.0%

N.S.

⑦生徒間の人間関係形成やリーダー育成などの集団づくりの方法（実現の程度×学校種）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
学校種	中学校	実数	123	424	794	1341
		%	9.2%	31.6%	59.2%	100.0%
	高等学校	実数	117	290	464	871
		%	13.4%	33.3%	53.3%	100.0%
合計		実数	240	714	1258	2212
		%	10.8%	32.3%	56.9%	100.0%

p<0.01

⑧厳しい指導と許されない指導の区別（実現の程度×学校種）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
学校種	中学校	実数	33	158	1152	1343
		%	2.5%	11.8%	85.8%	100.0%
	高等学校	実数	27	74	771	872
		%	3.1%	8.5%	88.4%	100.0%
合計		実数	60	232	1923	2215
		%	2.7%	10.5%	86.8%	100.0%

p<0.01

⑨生徒のニーズや意見を反映させた目標と計画（実現の程度×学校種）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
学校種	中学校	実数	127	556	660	1343
		%	9.5%	41.4%	49.1%	100.0%
	高等学校	実数	91	315	465	871
		%	10.4%	36.2%	53.4%	100.0%
合計		実数	218	871	1125	2214
		%	9.8%	39.3%	50.8%	100.0%

p<0.01

⑩学校組織全体で運動部活動の目標や指導の在り方を考えること（実現の程度×学校種）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
学校種	中学校	実数	234	417	693	1344
		%	17.4%	31.0%	51.6%	100.0%
	高等学校	実数	222	299	348	869
		%	25.5%	34.4%	40.0%	100.0%
合計		実数	456	716	1041	2213
		%	20.6%	32.4%	47.0%	100.0%

p<0.001

⑪目標や方針等について、保護者や関係者に説明すること（実現の程度×学校種）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
学校種	中学校	実数	106	311	929	1346
		%	7.9%	23.1%	69.0%	100.0%
	高等学校	実数	179	280	410	869
		%	20.6%	32.2%	47.2%	100.0%
合計		実数	285	591	1339	2215
		%	12.9%	26.7%	60.5%	100.0%

p<0.001

⑫外部指導者等の協力や連携による指導体制の方法（実現の程度×学校種）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
学校種	中学校	実数	380	514	450	1344
		%	28.3%	38.2%	33.5%	100.0%
	高等学校	実数	267	334	271	872
		%	30.6%	38.3%	31.1%	100.0%
合計		実数	647	848	721	2216
		%	29.2%	38.3%	32.5%	100.0%

N.S.

⑬運動部指導の自己点検・評価の方法（実現の程度×学校種）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
学校種	中学校	実数	344	597	404	1345
		%	25.6%	44.4%	30.0%	100.0%
	高等学校	実数	222	369	279	870
		%	25.5%	42.4%	32.1%	100.0%
合計		実数	566	966	683	2215
		%	25.6%	43.6%	30.8%	100.0%

N.S.

⑭指導者の感情コントロールやストレス・マネジメント（実現の程度×学校種）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
学校種	中学校	実数	241	535	570	1346
		%	17.9%	39.7%	42.3%	100.0%
	高等学校	実数	169	305	398	872
		%	19.4%	35.0%	45.6%	100.0%
合計		実数	410	840	968	2218
		%	18.5%	37.9%	43.6%	100.0%

N.S.

⑮指導力向上のために学校内外での研修や研究（実現の程度×学校種）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
学校種	中学校	実数	363	522	461	1346
		%	27.0%	38.8%	34.2%	100.0%
	高等学校	実数	259	317	295	871
		%	29.7%	36.4%	33.9%	100.0%
合計		実数	622	839	756	2217
		%	28.1%	37.8%	34.1%	100.0%

N.S.

4. 個人属性による違い（3）：担当教科による違い

1) 「大学で学ぶ必要性」との関連

以下は、回答者の担当教科の違いによる、「大学で学ぶ必要生」に対する回答の差異を、独立性検定によって検証した結果である。担当教科は、「保健体育科」「保健体育科以外」の2選択肢から回答を求めた。

結果、全15項目で二変数間の関連性に有意水準が認められた。いずれの場合も、保健体育科の方が「必要」とする回答割合が多く、すなわち、保健体育科の指導者ほど、各内容を「学生の頃に学んでおくべき」と考えていることがうかがえる。

①担当する運動部のスポーツ種目の基礎的な知識（学ぶ必要×教科）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
教科	保体	実数	81	117	1018	1216
		%	6.7%	9.6%	83.7%	100.0%
	保体以外	実数	187	168	599	954
		%	19.6%	17.6%	62.8%	100.0%
合計		実数	268	285	1617	2170
		%	12.4%	13.1%	74.5%	100.0%

p<0.001

②生徒の発達段階や成長に応じた指導法（学ぶ必要×教科）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
教科	保体	実数	30	67	1123	1220
		%	2.5%	5.5%	92.0%	100.0%
	保体以外	実数	61	106	790	957
		%	6.4%	11.1%	82.5%	100.0%
合計		実数	91	173	1913	2177
		%	4.2%	7.9%	87.9%	100.0%

p<0.001

③生徒の性差に応じた指導法（学ぶ必要×教科）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
教科	保体	実数	70	162	988	1220
		%	5.7%	13.3%	81.0%	100.0%
	保体以外	実数	104	181	666	951
		%	10.9%	19.0%	70.0%	100.0%
合計		実数	174	343	1654	2171
		%	8.0%	15.8%	76.2%	100.0%

p<0.001

④トレーニング計画を考えたり、指導する際の基礎となる科学的知識（学ぶ必要×教科）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
教科	保体	実数	36	88	1095	1219
		%	3.0%	7.2%	89.8%	100.0%
	保体以外	実数	71	134	752	957
		%	7.4%	14.0%	78.6%	100.0%
合計		実数	107	222	1847	2176
		%	4.9%	10.2%	84.9%	100.0%

p<0.001

⑤安全管理や事故防止、危機管理の方法（学ぶ必要×教科）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
教科	保体	実数	16	40	1163	1219
		%	1.3%	3.3%	95.4%	100.0%
	保体以外	実数	34	59	864	957
		%	3.6%	6.2%	90.3%	100.0%
合計		実数	50	99	2027	2176
		%	2.3%	4.5%	93.2%	100.0%

p<0.001

⑥生徒が主体的に自立して取り組む力を育成する指導法（学ぶ必要×教科）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
教科	保体	実数	62	191	967	1220
		%	5.1%	15.7%	79.3%	100.0%
	保体以外	実数	72	197	685	954
		%	7.5%	20.6%	71.8%	100.0%
合計		実数	134	388	1652	2174
		%	6.2%	17.8%	76.0%	100.0%

p<0.001

⑦生徒間の人間関係形成やリーダー育成などの集団づくりの方法（学ぶ必要×教科）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
教科	保体	実数	47	152	1021	1220
		%	3.9%	12.5%	83.7%	100.0%
	保体以外	実数	66	167	724	957
		%	6.9%	17.5%	75.7%	100.0%
合計		実数	113	319	1745	2177
		%	5.2%	14.7%	80.2%	100.0%

p<0.001

⑧厳しい指導と許されない指導の区別（学ぶ必要×教科）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
教科	保体	実数	41	86	1090	1217
		%	3.4%	7.1%	89.6%	100.0%
	保体以外	実数	66	91	799	956
		%	6.9%	9.5%	83.6%	100.0%
合計		実数	107	177	1889	2173
		%	4.9%	8.1%	86.9%	100.0%

p<0.001

⑨生徒のニーズや意見を反映させた目標と計画（学ぶ必要×教科）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
教科	保体	実数	88	277	853	1218
		%	7.2%	22.7%	70.0%	100.0%
	保体以外	実数	143	271	543	957
		%	14.9%	28.3%	56.7%	100.0%
合計		実数	231	548	1396	2175
		%	10.6%	25.2%	64.2%	100.0%

p<0.001

⑩学校組織全体で運動部活動の目標や指導の在り方を考えること（学ぶ必要×教科）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
教科	保体	実数	152	313	755	1220
		%	12.5%	25.7%	61.9%	100.0%
	保体以外	実数	209	259	487	955
		%	21.9%	27.1%	51.0%	100.0%
合計		実数	361	572	1242	2175
		%	16.6%	26.3%	57.1%	100.0%

p<0.001

⑪目標や方針等について、保護者や関係者に説明すること（学ぶ必要×教科）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
教科	保体	実数	156	327	735	1218
		%	12.8%	26.8%	60.3%	100.0%
	保体以外	実数	196	245	515	956
		%	20.5%	25.6%	53.9%	100.0%
合計		実数	352	572	1250	2174
		%	16.2%	26.3%	57.5%	100.0%

p<0.001

⑫外部指導者等の協力や連携による指導体制の方法（学ぶ必要×教科）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
教科	保体	実数	158	315	745	1218
		%	13.0%	25.9%	61.2%	100.0%
	保体以外	実数	207	271	477	955
		%	21.7%	28.4%	49.9%	100.0%
合計		実数	365	586	1222	2173
		%	16.8%	27.0%	56.2%	100.0%

p<0.001

⑬運動部指導の自己点検・評価の方法（学ぶ必要×教科）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
教科	保体	実数	106	330	781	1217
		%	8.7%	27.1%	64.2%	100.0%
	保体以外	実数	164	289	503	956
		%	17.2%	30.2%	52.6%	100.0%
合計		実数	270	619	1284	2173
		%	12.4%	28.5%	59.1%	100.0%

p<0.001

⑭指導者の感情コントロールやストレス・マネジメント（学ぶ必要×教科）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
教科	保体	実数	61	173	985	1219
		%	5.0%	14.2%	80.8%	100.0%
	保体以外	実数	94	159	704	957
		%	9.8%	16.6%	73.6%	100.0%
合計		実数	155	332	1689	2176
		%	7.1%	15.3%	77.6%	100.0%

p<0.001

⑮指導力向上のために学校内外での研修や研究（学ぶ必要×教科）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
教科	保体	実数	115	262	841	1218
		%	9.4%	21.5%	69.0%	100.0%
	保体以外	実数	148	243	566	957
		%	15.5%	25.4%	59.1%	100.0%
合計		実数	263	505	1407	2175
		%	12.1%	23.2%	64.7%	100.0%

p<0.001

2) 「実現できている程度」との関連

以下は、回答者の担当教科の違いによる、「実現できている程度」に対する回答の差異を、独立性検定によって検証した結果である。担当教科は、前項と同様に、「保健体育科」「保健体育科以外」の2選択肢である。



結果、二変数間の関連性に有意水準が認められた項目は、以下の1項目のみであった。

⑮指導力向上のために学校内外での研修や研究

この場合、保健体育科の方が「できている」とする回答割合が多く、すなわち、保健体育科を担当教科とする指導者ほど、当該の内容を「現場では実践できている」と評価していることがうかがえる。

①担当する運動部のスポーツ種目の基礎的な知識（実現の程度×教科）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
教科	保体	実数	155	283	780	1218
		%	12.7%	23.2%	64.0%	100.0%
	保体以外	実数	123	239	592	954
		%	12.9%	25.1%	62.1%	100.0%
合計		実数	278	522	1372	2172
		%	12.8%	24.0%	63.2%	100.0%

N.S.

②生徒の発達段階や成長に応じた指導法（実現の程度×教科）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
教科	保体	実数	128	338	750	1216
		%	10.5%	27.8%	61.7%	100.0%
	保体以外	実数	113	269	571	953
		%	11.9%	28.2%	59.9%	100.0%
合計		実数	241	607	1321	2169
		%	11.1%	28.0%	60.9%	100.0%

N.S.

③生徒の性差に応じた指導法（実現の程度×教科）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
教科	保体	実数	109	397	709	1215
		%	9.0%	32.7%	58.4%	100.0%
	保体以外	実数	109	302	543	954
		%	11.4%	31.7%	56.9%	100.0%
合計		実数	218	699	1252	2169
		%	10.1%	32.2%	57.7%	100.0%

N.S.

④トレーニング計画を考えたり、指導する際の基礎となる科学的知識（実現の程度×教科）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
教科	保体	実数	280	486	448	1214
		%	23.1%	40.0%	36.9%	100.0%
	保体以外	実数	240	363	351	954
		%	25.2%	38.1%	36.8%	100.0%
合計		実数	520	849	799	2168
		%	24.0%	39.2%	36.9%	100.0%

N.S.

⑤安全管理や事故防止、危機管理の方法（実現の程度×教科）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
教科	保体	実数	67	152	996	1215
		%	5.5%	12.5%	82.0%	100.0%
	保体以外	実数	43	135	775	953
		%	4.5%	14.2%	81.3%	100.0%
合計		実数	110	287	1771	2168
		%	5.1%	13.2%	81.7%	100.0%

N.S.

⑥生徒が主体的に自立して取り組む力を育成する指導法（実現の程度×教科）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
教科	保体	実数	156	432	628	1216
		%	12.8%	35.5%	51.6%	100.0%
	保体以外	実数	117	347	489	953
		%	12.3%	36.4%	51.3%	100.0%
合計		実数	273	779	1117	2169
		%	12.6%	35.9%	51.5%	100.0%

N.S.

⑦生徒間の人間関係形成やリーダー育成などの集団づくりの方法（実現の程度×教科）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
教科	保体	実数	145	381	690	1216
		%	11.9%	31.3%	56.7%	100.0%
	保体以外	実数	91	317	544	952
		%	9.6%	33.3%	57.1%	100.0%
合計		実数	236	698	1234	2168
		%	10.9%	32.2%	56.9%	100.0%

N.S.

⑧厳しい指導と許されない指導の区別（実現の程度×教科）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
教科	保体	実数	37	116	1063	1216
		%	3.0%	9.5%	87.4%	100.0%
	保体以外	実数	22	107	826	955
		%	2.3%	11.2%	86.5%	100.0%
合計		実数	59	223	1889	2171
		%	2.7%	10.3%	87.0%	100.0%

N.S.

⑨生徒のニーズや意見を反映させた目標と計画（実現の程度×教科）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
教科	保体	実数	119	468	629	1216
		%	9.8%	38.5%	51.7%	100.0%
	保体以外	実数	97	386	471	954
		%	10.2%	40.5%	49.4%	100.0%
合計		実数	216	854	1100	2170
		%	10.0%	39.4%	50.7%	100.0%

N.S.

⑩学校組織全体で運動部活動の目標や指導の在り方を考えること（実現の程度×教科）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
教科	保体	実数	249	392	575	1216
		%	20.5%	32.2%	47.3%	100.0%
	保体以外	実数	200	311	442	953
		%	21.0%	32.6%	46.4%	100.0%
合計		実数	449	703	1017	2169
		%	20.7%	32.4%	46.9%	100.0%

N.S.

⑪目標や方針等について、保護者や関係者に説明すること（実現の程度×教科）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
教科	保体	実数	152	330	734	1216
		%	12.5%	27.1%	60.4%	100.0%
	保体以外	実数	130	247	578	955
		%	13.6%	25.9%	60.5%	100.0%
合計		実数	282	577	1312	2171
		%	13.0%	26.6%	60.4%	100.0%

N.S.

⑫外部指導者等の協力や連携による指導体制の方法（実現の程度×教科）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
教科	保体	実数	361	462	395	1218
		%	29.6%	37.9%	32.4%	100.0%
	保体以外	実数	279	367	308	954
		%	29.2%	38.5%	32.3%	100.0%
合計		実数	640	829	703	2172
		%	29.5%	38.2%	32.4%	100.0%

N.S.

⑬運動部指導の自己点検・評価の方法（実現の程度×教科）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
教科	保体	実数	283	544	390	1217
		%	23.3%	44.7%	32.0%	100.0%
	保体以外	実数	269	402	283	954
		%	28.2%	42.1%	29.7%	100.0%
合計		実数	552	946	673	2171
		%	25.4%	43.6%	31.0%	100.0%

p<0.05

⑭指導者の感情コントロールやストレス・マネジメント（実現の程度×教科）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
教科	保体	実数	221	461	536	1218
		%	18.1%	37.8%	44.0%	100.0%
	保体以外	実数	181	358	417	956
		%	18.9%	37.4%	43.6%	100.0%
合計		実数	402	819	953	2174
		%	18.5%	37.7%	43.8%	100.0%

N.S.

⑮指導力向上のために学校内外での研修や研究（実現の程度×教科）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
教科	保体	実数	314	452	452	1218
		%	25.8%	37.1%	37.1%	100.0%
	保体以外	実数	297	364	294	955
		%	31.1%	38.1%	30.8%	100.0%
合計		実数	611	816	746	2173
		%	28.1%	37.6%	34.3%	100.0%

p<0.01

5. 個人属性による違い（4）：指導種目の競技経験による違い

1) 「大学で学ぶ必要性」との関連

以下は、回答者の指導種目の競技経験の違いによる、「大学で学ぶ必要生」に対する回答の差異を、独立性検定によって検証した結果である。指導種目の競技経験の違いは、「ある」「なし」の2選択肢から回答を求めた。

結果、二変数間の関連性に有意水準が認められた項目は、以下の全7項目であった。

- ①担当する運動部のスポーツ種目の基礎的な知識
- ②生徒の発達段階や成長に応じた指導法
- ④トレーニング計画を考えたり、指導する際の基礎となる科学的知識
- ⑨生徒のニーズや意見を反映させた目標と計画
- ⑩学校組織全体で運動部活動の目標や指導の在り方を考えること
- ⑬運動部指導の自己点検・評価の方法
- ⑮指導力向上のために学校内外での研修や研究

いずれの場合も、指導種目の競技経験のある方が「必要」とする回答割合が多く、すなわち、当該の指導者ほど、各内容を「学生の頃に学んでおくべき」と考えていることがうかがえる。

①担当する運動部のスポーツ種目の基礎的な知識（学ぶ必要×競技経験）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
種目の 競技経験	あり	実数	173	199	1324	1696
		%	10.2%	11.7%	78.1%	100.0%
	なし	実数	101	88	335	524
		%	19.3%	16.8%	63.9%	100.0%
合計		実数	274	287	1659	2220
		%	12.3%	12.9%	74.7%	100.0%

p<0.001

②生徒の発達段階や成長に応じた指導法（学ぶ必要×競技経験）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
種目の 競技経験	あり	実数	60	126	1516	1702
		%	3.5%	7.4%	89.1%	100.0%
	なし	実数	33	51	441	525
		%	6.3%	9.7%	84.0%	100.0%
合計		実数	93	177	1957	2227
		%	4.2%	7.9%	87.9%	100.0%

p<0.01

③生徒の性差に応じた指導法（学ぶ必要×競技経験）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
種目の 競技経験	あり	実数	133	255	1309	1697
		%	7.8%	15.0%	77.1%	100.0%
	なし	実数	47	95	382	524
		%	9.0%	18.1%	72.9%	100.0%
合計		実数	180	350	1691	2221
		%	8.1%	15.8%	76.1%	100.0%

N.S.

④トレーニング計画を考えたり、指導する際の基礎となる科学的知識（学ぶ必要×競技経験）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
種目の 競技経験	あり	実数	74	160	1467	1701
		%	4.4%	9.4%	86.2%	100.0%
	なし	実数	38	68	419	525
		%	7.2%	13.0%	79.8%	100.0%
合計		実数	112	228	1886	2226
		%	5.0%	10.2%	84.7%	100.0%

p<0.01

⑤安全管理や事故防止、危機管理の方法（学ぶ必要×競技経験）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
種目の 競技経験	あり	実数	39	70	1592	1701
		%	2.3%	4.1%	93.6%	100.0%
	なし	実数	14	31	480	525
		%	2.7%	5.9%	91.4%	100.0%
合計		実数	53	101	2072	2226
		%	2.4%	4.5%	93.1%	100.0%

N.S.

⑥生徒が主体的に自立して取り組む力を育成する指導法（学ぶ必要×競技経験）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
種目の 競技経験	あり	実数	98	302	1300	1700
		%	5.8%	17.8%	76.5%	100.0%
	なし	実数	40	92	392	524
		%	7.6%	17.6%	74.8%	100.0%
合計		実数	138	394	1692	2224
		%	6.2%	17.7%	76.1%	100.0%

N.S.

⑦生徒間の人間関係形成やリーダー育成などの集団づくりの方法（学ぶ必要×競技経験）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
種目の 競技経験	あり	実数	81	248	1373	1702
		%	4.8%	14.6%	80.7%	100.0%
	なし	実数	35	78	412	525
		%	6.7%	14.9%	78.5%	100.0%
合計		実数	116	326	1785	2227
		%	5.2%	14.6%	80.2%	100.0%

N.S.

⑧厳しい指導と許されない指導の区別（学ぶ必要×競技経験）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
種目の 競技経験	あり	実数	85	141	1473	1699
		%	5.0%	8.3%	86.7%	100.0%
	なし	実数	25	41	458	524
		%	4.8%	7.8%	87.4%	100.0%
合計		実数	110	182	1931	2223
		%	4.9%	8.2%	86.9%	100.0%

N.S.

⑨生徒のニーズや意見を反映させた目標と計画（学ぶ必要×競技経験）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
種目の 競技経験	あり	実数	163	413	1124	1700
		%	9.6%	24.3%	66.1%	100.0%
	なし	実数	76	142	307	525
		%	14.5%	27.0%	58.5%	100.0%
合計		実数	239	555	1431	2225
		%	10.7%	24.9%	64.3%	100.0%

p<0.01

⑩学校組織全体で運動部活動の目標や指導の在り方を考えること（学ぶ必要×競技経験）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
種目の 競技経験	あり	実数	253	434	1013	1700
		%	14.9%	25.5%	59.6%	100.0%
	なし	実数	115	148	262	525
		%	21.9%	28.2%	49.9%	100.0%
合計		実数	368	582	1275	2225
		%	16.5%	26.2%	57.3%	100.0%

p<0.001

⑪目標や方針等について、保護者や関係者に説明すること（学ぶ必要×競技経験）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
種目の 競技経験	あり	実数	261	439	1000	1700
		%	15.4%	25.8%	58.8%	100.0%
	なし	実数	100	141	283	524
		%	19.1%	26.9%	54.0%	100.0%
合計		実数	361	580	1283	2224
		%	16.2%	26.1%	57.7%	100.0%

N.S.

⑫外部指導者等の協力や連携による指導体制の方法（学ぶ必要×競技経験）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
種目の 競技経験	あり	実数	270	456	974	1700
		%	15.9%	26.8%	57.3%	100.0%
	なし	実数	103	142	278	523
		%	19.7%	27.2%	53.2%	100.0%
合計		実数	373	598	1252	2223
		%	16.8%	26.9%	56.3%	100.0%

N.S.

⑬運動部指導の自己点検・評価の方法（学ぶ必要×競技経験）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
種目の 競技経験	あり	実数	192	482	1025	1699
		%	11.3%	28.4%	60.3%	100.0%
	なし	実数	85	154	285	524
		%	16.2%	29.4%	54.4%	100.0%
合計		実数	277	636	1310	2223
		%	12.5%	28.6%	58.9%	100.0%

p<0.01

⑭指導者の感情コントロールやストレス・マネジメント（学ぶ必要×競技経験）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
種目の 競技経験	あり	実数	111	267	1324	1702
		%	6.5%	15.7%	77.8%	100.0%
	なし	実数	49	71	404	524
		%	9.4%	13.5%	77.1%	100.0%
合計		実数	160	338	1728	2226
		%	7.2%	15.2%	77.6%	100.0%

N.S.

⑮指導力向上のために学校内外での研修や研究（学ぶ必要×競技経験）

			必要ない	どちらとも言えない	必要	合計
種目の 競技経験	あり	実数	189	391	1120	1700
		%	11.1%	23.0%	65.9%	100.0%
	なし	実数	83	125	317	525
		%	15.8%	23.8%	60.4%	100.0%
合計		実数	272	516	1437	2225
		%	12.2%	23.2%	64.6%	100.0%

p<0.01

2)「実現できている程度」との関連

以下は、回答者の指導種目の競技経験の違いによる、「実現できている程度」に対する回答の差異を、独立性検定によって検証した結果である。指導種目の競技経験の違いは、前項と同様に、「ある」「なし」の2選択肢である。

結果、二変数間の関連性に有意水準が認められた項目は、以下の1項目のみであった。

①担当する運動部のスポーツ種目の基礎的な知識

この場合、保健体育科の方が「できている」とする回答割合が多く、すなわち、保健体育科を担当教科とする指導者ほど、当該の内容を「現場では実践できている」と評価していることがうかがえる。

①担当する運動部のスポーツ種目の基礎的な知識（実現の程度×競技経験）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
種目の 競技経験	あり	実数	176	388	1134	1698
		%	10.4%	22.9%	66.8%	100.0%
	なし	実数	109	142	273	524
		%	20.8%	27.1%	52.1%	100.0%
合計		実数	285	530	1407	2222
		%	12.8%	23.9%	63.3%	100.0%

p<0.001

②生徒の発達段階や成長に応じた指導法（実現の程度×競技経験）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
種目の 競技経験	あり	実数	180	471	1047	1698
		%	10.6%	27.7%	61.7%	100.0%
	なし	実数	67	148	306	521
		%	12.9%	28.4%	58.7%	100.0%
合計		実数	247	619	1353	2219
		%	11.1%	27.9%	61.0%	100.0%

N.S.

③生徒の性差に応じた指導法（実現の程度×競技経験）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
種目の 競技経験	あり	実数	166	546	984	1696
		%	9.8%	32.2%	58.0%	100.0%
	なし	実数	55	176	291	522
		%	10.5%	33.7%	55.7%	100.0%
合計		実数	221	722	1275	2218
		%	10.0%	32.6%	57.5%	100.0%

N.S.

④トレーニング計画を考えたり、指導する際の基礎となる科学的知識（実現の程度×競技経験）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
種目の 競技経験	あり	実数	404	650	641	1695
		%	23.8%	38.3%	37.8%	100.0%
	なし	実数	126	219	178	523
		%	24.1%	41.9%	34.0%	100.0%
合計		実数	530	869	819	2218
		%	23.9%	39.2%	36.9%	100.0%

N.S.

⑤安全管理や事故防止、危機管理の方法（実現の程度×競技経験）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
種目の 競技経験	あり	実数	85	237	1374	1696
		%	5.0%	14.0%	81.0%	100.0%
	なし	実数	26	58	438	522
		%	5.0%	11.1%	83.9%	100.0%
合計		実数	111	295	1812	2218
		%	5.0%	13.3%	81.7%	100.0%

N.S.

⑥生徒が主体的に自立して取り組む力を育成する指導法（実現の程度×競技経験）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
種目の 競技経験	あり	実数	207	622	870	1699
		%	12.2%	36.6%	51.2%	100.0%
	なし	実数	68	179	273	520
		%	13.1%	34.4%	52.5%	100.0%
合計		実数	275	801	1143	2219
		%	12.4%	36.1%	51.5%	100.0%

N.S.

⑦生徒間の人間関係形成やリーダー育成などの集団づくりの方法（実現の程度×競技経験）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
種目の 競技経験	あり	実数	174	564	960	1698
		%	10.2%	33.2%	56.5%	100.0%
	なし	実数	64	153	303	520
		%	12.3%	29.4%	58.3%	100.0%
合計		実数	238	717	1263	2218
		%	10.7%	32.3%	56.9%	100.0%

N.S.

⑧厳しい指導と許されない指導の区別（実現の程度×競技経験）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
種目の 競技経験	あり	実数	42	177	1481	1700
		%	2.5%	10.4%	87.1%	100.0%
	なし	実数	18	55	448	521
		%	3.5%	10.6%	86.0%	100.0%
合計		実数	60	232	1929	2221
		%	2.7%	10.4%	86.9%	100.0%

N.S.

⑨生徒のニーズや意見を反映させた目標と計画（実現の程度×競技経験）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
種目の 競技経験	あり	実数	167	672	860	1699
		%	9.8%	39.6%	50.6%	100.0%
	なし	実数	52	200	269	521
		%	10.0%	38.4%	51.6%	100.0%
合計		実数	219	872	1129	2220
		%	9.9%	39.3%	50.9%	100.0%

N.S.

⑩学校組織全体で運動部活動の目標や指導の在り方を考えること

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
種目の 競技経験	あり	実数	351	556	789	1696
		%	20.7%	32.8%	46.5%	100.0%
	なし	実数	103	164	256	523
		%	19.7%	31.4%	48.9%	100.0%
合計		実数	454	720	1045	2219
		%	20.5%	32.4%	47.1%	100.0%

N.S.

⑪目標や方針等について、保護者や関係者に説明すること（実現の程度×競技経験）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
種目の 競技経験	あり	実数	220	458	1021	1699
		%	12.9%	27.0%	60.1%	100.0%
	なし	実数	65	133	324	522
		%	12.5%	25.5%	62.1%	100.0%
合計		実数	285	591	1345	2221
		%	12.8%	26.6%	60.6%	100.0%

N.S.

⑫外部指導者等の協力や連携による指導体制の方法（実現の程度×競技経験）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
種目の 競技経験	あり	実数	496	656	547	1699
		%	29.2%	38.6%	32.2%	100.0%
	なし	実数	151	195	177	523
		%	28.9%	37.3%	33.8%	100.0%
合計		実数	647	851	724	2222
		%	29.1%	38.3%	32.6%	100.0%

N.S.

⑬運動部指導の自己点検・評価の方法（実現の程度×競技経験）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
種目の 競技経験	あり	実数	428	746	524	1698
		%	25.2%	43.9%	30.9%	100.0%
	なし	実数	139	220	164	523
		%	26.6%	42.1%	31.4%	100.0%
合計		実数	567	966	688	2221
		%	25.5%	43.5%	31.0%	100.0%

N.S.

⑭指導者の感情コントロールやストレス・マネジメント（実現の程度×競技経験）

			できていない	どちらとも言えない	できている	合計
種目の 競技経験	あり	実数	319	638	743	1700
		%	18.8%	37.5%	43.7%	100.0%
	なし	実数	92	204	228	524
		%	17.6%	38.9%	43.5%	100.0%
合計		実数	411	842	971	2224
		%	18.5%	37.9%	43.7%	100.0%

N.S.



⑮指導力向上のために学校内外での研修や研究（実現の程度×競技経験）

		できていない	どちらとも言えない	できている	合計	
種目の 競技経験	あり	実数	463	637	600	1700
		%	27.2%	37.5%	35.3%	100.0%
	なし	実数	159	202	162	523
		%	30.4%	38.6%	31.0%	100.0%
合計		実数	622	839	762	2223
		%	28.0%	37.7%	34.3%	100.0%

N.S.

## 6. 総括

前述のように、本調査は、実際に運動部指導にあたっている顧問教諭（運動部指導者）の方々へのアンケート調査により、運動部活動指導者の指導力育成のための講義や講習の内容を考察するために実施した。このうち、「講義」は、将来教員になることを目指し教職課程を履修する学生を対象に運動部指導力を創出するものであり、「講習」は既に運動部指導にあたっている顧問教師を対象に運動部指導力の一層の充実を図るものである。

そこで、「講義」内容を講じるにあたっては、「大学で学ばせる必要はどの程度ありますか」という問いを実施し、この問いの結果から、指導者力育成に必要な講習内容を類推した。一方、「講習」内容を講じるにあたっては、「貴校では、どの程度実現できていますか」という問いを実施し、運動部指導現場の実態を顧みること、指導者力育成に必要な講習内容を類推した。

結果、全体傾向から、講義内容としては以下のような内容が重要と推察された（番号は調査票内での項目番号）。

- ①担当する運動部のスポーツ種目の基礎的な知識
- ②生徒の発達段階や成長に応じた指導法
- ④トレーニング計画を考えたり、指導する際の基礎となる科学的知識
- ⑤安全管理や事故防止、危機管理の方法
- ⑧厳しい指導と許されない指導の区別

また、講習内容としては以下のような内容が重要と推察された（上記に同じく、番号は調査票内での項目番号）。

- ④トレーニング計画を考えたり、指導する際の基礎となる科学的知識
- ⑩学校組織全体で運動部活動の目標や指導の在り方を考えること
- ⑫外部指導者等の協力や連携による指導体制の方法
- ⑬運動部指導の自己点検・評価の方法
- ⑭指導者の感情コントロールやストレス・マネジメント
- ⑮指導力向上のために学校内外での研修や研究

一方、「年齢」「学校種」「担当教科」「指導種目の競技経験」のといった個人属性と、「学ぶ必要」や「実現程度」の関連を検証した結果、「多くの関連」が認められた。しかし、それらの結果から何らかの共通性を見出すことや、あるいは、方向性をもった示唆をすることはできなかった。すなわち、「現場の声」を聞くことに限界があることが推察される。

これらの結果（全体傾向と個人属性による差異の検証）から、講義や講習の内容を講じるにあたって、今後、今回のような帰納的分析のみならず、教育学などの援用による演繹的分析を積み上げていく必要があると考えられる。

# 運動部活動の指導・運営と指導者養成に関する調査

拝啓 初秋の候、先生方には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

運動部活動は教科指導や学校行事に並ぶ重要な役割を果たしており、教職課程で学ぶ学生の大半も運動部活動の指導を希望しています。しかし、現状では、運動部指導者の養成に関する教育が十分ではありません。そこで、このような授業科目の開設や教員免許状更新講習での実施を検討しております。

つきましては、現職の教員の方からご意見を伺い、教育プログラムの内容や方法に反映させたいと思います。どうぞ、本調査にご協力をお願い申し上げます。

貴校で運動部を実際に指導されている顧問教員のうち、異なる年代の方、2名に調査をお願いしています。回答は学校名も個人名も匿名で、データは統計処理によって分析いたしますので、学校や回答者が特定されることはありません。結果は報告書を作成し、学校長宛にお送りいたします。また、学会で研究発表し、大学授業などでの教材に反映させます。

回答には5分程度のお時間をいただくことになるかと思えます。個人の立場でお答え下さい。また、ボールペンなどのインクを使って記入してください。

学期始めのご多忙の折とは存じますが、10月10日までに返信用封筒を用いてご返送（投函）いただければ幸いです。なにとぞご協力の程よろしくお願いいたします。

文部科学省委託研究

「学校体育活動における指導の在り方調査研究」

代表 小林勝法（文教大学）

TEL 0467-53-2111（代表）

FAX 0467-54-3722（共通）

E-mail kappo@shonan.bunkyo.ac.jp

## I. ご自身について

該当箇所に○印をつけるか、年数を記入してください。

### 1. 性別

1. 男性

2. 女性

### 2. 年齢

1. ～29歳

2. 30～39歳

3. 40～49歳

4. 50～59歳

5. 60歳～

### 3. 勤務されている学校種

1. 中学校

2. 高等学校

3. 中・高両方

### 4. 担当教科

1. 保健体育

2. 保健体育以外

### 5. 学校で運動部を指導されている年数

【                   】年（本年を含める）

### 6. 現在、指導されている運動部種目のご経験

1. 経験がある

2. 経験がない

## Ⅱ. 大学での指導者養成プログラムの内容について

以下の1～15の事項について、以下の2つずつの回答をお願いいたします。

- ご自身が勤務されているのと同じ学校種の運動部を指導したいと希望する大学生が、各事項を大学で学ぶ必要性は、どの程度あるとお考えですか。
- 貴校全体を見て、各事項を実施できている部は、どの程度あるとお考えですか。各々、該当する箇所に1つ○印をつけてください（個人の主観的ご判断でお答えください）。

	大学で学ぶ必要性					貴校全体での実現の程度				
	必要である	少し必要である	どちらとも言えない	あまり必要ではない	必要ではない	できている	だいたいできている	どちらとも言えない	あまりできていない	できていない
1. 担当する運動部のスポーツ種目の基礎的な知識 (技術的な指導法や戦術、ルール、審判法など)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
						(指導者の習得程度)				
2. 生徒の発達段階や成長による変化に応じた指導法	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3. 生徒の性差に応じた指導法	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
4. トレーニング計画を考えたり、指導する際の基礎となる科学的知識（心理学、生理学、栄養学など）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
						(指導者の習得程度)				
5. 安全管理や事故防止、危機管理の方法	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
6. 生徒が主体的に自立して取り組む力を育成する指導法	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
7. 生徒間の人間関係形成やリーダー育成などの集団づくりの方法	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
8. 厳しい指導（肉体的、精神的な負荷）と許されない指導（体罰・暴力等）の区別	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
9. 生徒のニーズや意見を把握し、それらを反映させた目標設定と計画作成	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

	大 学 で 学 ぶ 必 要 性					貴 校 全 体 で の 実 現 の 程 度				
	必 要 で あ る	少 し 必 要 で あ る	ど ち ら と も 言 え な い	あ ま り 必 要 で は な い	必 要 で は な い	で き て い る	だ い た い で き て い る	ど ち ら と も 言 え な い	あ ま り で き て い な い	で き て い な い
10. 学校組織全体で運動部活動の目標や指導の在り方を考えること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	左記事案の実施方法の学習									
11. 学校全体の目標や方針、各運動部の目標や計画等について、保護者や関係者に説明すること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	左記事案の実施方法の学習									
12. 外部指導者やスポーツドクター、トレーナー等の協力や連携による指導体制の方法	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
13. 運動部指導の自己点検・評価の方法	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
14. 指導者の感情コントロールやストレス・マネジメント	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
15. 指導力向上のために学校内外での研修や研究	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	左記事案の実施方法の学習									

何かご意見やご提案がありましたらお書きください。

質問は以上です。お忙しい中、ご協力、ありがとうございました。

平成27年 1月30日

都道府県教育委員会 委員長殿  
アンケート調査協力校 学校長殿  
アンケート調査 協力者殿

文部科学省委託研究  
「学校体育活動における指導の在り方調査研究」  
代表 小林勝法（文教大学）

### アンケート調査へのご協力の御礼、および結果ご報告

拝啓 初春の候、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、さる9月に「運動部活動の指導・運営と指導者養成に関する調査」を実施いたしました折りには、ご多用中にも関わらずご協力を賜り、深く御礼申し上げます。2,000校4,000名の方々にご依頼をいたしましたが、2,232名の方々からご回答をいただきました。回収率は55.8%と、社会調査としては異例の高い割合となりました。これも一重に、皆様方のご厚意のお陰と存じ上げます。重ねて御礼申し上げます。

つきましては、本紙により、調査結果の概要をご報告させていただきます。ご査収ください。なお、本結果は、「運動部活動の指導者養成」という課題で協働している、日本体育学会に報告し、有効に活用させていただきます。

末筆でございますが、2015年が皆様方にとって更なるご発展の年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。  
敬具

### 記

表 ご回答者の個人属性

項目	属性	%	実数
性別	男性	79.4	1771
	女性	20.6	460
年代	20歳代	26.3	587
	30歳代	32.9	734
	40歳代	21.1	471
	50歳代	19.2	429
	60歳代	0.4	9
指導学校種	中学校	60.5	1349
	高等学校	39.1	873
	中等・中高一貫	0.4	9
担当教科	保健体育科	56.0	1220
	保健体育科以外	44.0	958
指導種目の競技経験	あり	76.4	1703
	なし	23.6	525
指導年(平均/標準偏差)		13.1	10.1

以上

## アンケート調査報告

### 1. 調査目的

本調査は、運動部活動の指導者育成のため、大学が実施する講義（教職課程履修学生対象）や講習（現職教員対象）の内容を講じる際の基礎資料を得るために実施しました。なお、文部科学省の委託研究として行いました。

### 2. 調査方法

#### 1) 質問項目の設定について

##### ①質問項目の内容

運動部の指導者育成のための講義や講習の内容を考察するため、「指導に必要な知識など」や「運動部で実施すべき指導」などについて、文部科学省が提示した運動部活動の指導方針（「みんなでつくる運動部活動」（1999）、「運動部活動の在り方に関する調査研究報告書」（2013）など）から内容を抽出しました。具体的な項目は以下の15項目です。

- ①担当する運動部のスポーツ種目の基礎的な知識
- ②生徒の発達段階や成長に応じた指導法
- ③生徒の性差に応じた指導法
- ④トレーニング計画を考えたり、指導する際の基礎となる科学的知識
- ⑤安全管理や事故防止、危機管理の方法
- ⑥生徒が主体的に自立して取り組む力を育成する指導法
- ⑦生徒間の人間関係形成やリーダー育成などの集団づくりの方法
- ⑧厳しい指導と許されない指導の区別
- ⑨生徒のニーズや意見を反映させた目標と計画
- ⑩学校組織全体で運動部活動の目標や指導の在り方を考えること
- ⑪目標や方針等について、保護者や関係者に説明すること
- ⑫外部指導者等の協力や連携による指導体制の方法
- ⑬運動部指導の自己点検・評価の方法
- ⑭指導者の感情コントロールやストレス・マネジメント
- ⑮指導力向上のために学校内外での研修や研究

##### ②質問の方法

調査は「講義」内容および「講習」内容を講じるための資料を得ることを目的としています。そこで、前者（講義）については、「大学で学ばせる必要はどの程度ありますか」という問いを実施しました。一方、後者（講習）については、「貴校では、どの程度実現できていますか」という問いを実施しました。

#### 2) 調査実施方法について

アンケート調査は郵送により配布と回収を行いました。平成26年9月上旬に配布し、10月10日を期限として回収しました。

配布（調査）対象は、中学校1,300校、高等学校700校（ともに全校数の約15%）で、各校2名に回答を依頼しました（計4,000名に依頼）。なお、回答は2,232部でした（4,000を母数とすると回収率は55.8%）

### 3. 調査結果

#### 1) 「学ぶ必要」について：教職課程履修学生向けの講義内容の検討

表1および図1に、「各事項を『学ぶ必要』」の回答結果を示しました。表中では、最右行に「5. 必要」の回答割合の序列（多い順）を示し、上位3項目を網掛け示しています。

上位3項目は、「⑤安全管理や事故防止、危機管理の方法」、「⑧厳しい指導と許されない指導の区別」、「②生徒の発達段階や成長に応じた指導法」でした。これらの内容が教職課程履修学生向け講義内容の中核になる可能性があります。

表1 各事項を「学ぶ必要」

	1.必要ない		2.あまり必要ない		3.どちらとも言えない		4.少し必要		5.必要		「5」の多い順序
	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	
項目①	3.9	87	8.5	189	12.9	288	24.2	539	50.4	1121	5
項目②	1.2	27	3.0	67	8.0	178	27.1	605	60.7	1354	3
項目③	2.1	46	6.0	134	15.7	350	31.1	691	45.1	1004	7
項目④	1.2	27	3.8	85	10.2	228	32.8	732	51.9	1158	4
項目⑤	0.6	13	1.8	40	4.5	101	19.8	442	73.3	1634	1
項目⑥	1.4	31	4.8	107	17.7	395	32.4	722	43.7	973	8
項目⑦	1.2	26	4.1	91	14.6	326	33.4	745	46.8	1043	6
項目⑧	1.8	41	3.1	69	8.2	182	21.4	477	65.5	1458	2
項目⑨	2.8	62	8.0	179	24.9	556	32.9	733	31.4	699	11
項目⑩	4.5	100	12.1	270	26.1	582	31.2	696	26.1	581	12
項目⑪	4.5	101	11.7	261	26.1	581	32.9	734	24.7	551	14
項目⑫	4.1	91	12.7	282	26.9	598	34.1	760	22.3	496	15
項目⑬	3.5	78	8.9	199	28.6	637	34.1	760	24.8	553	13
項目⑭	2.2	50	4.9	110	15.2	338	35.0	780	42.7	952	9
項目⑮	4.4	97	7.9	175	23.2	517	32.3	721	32.3	719	10

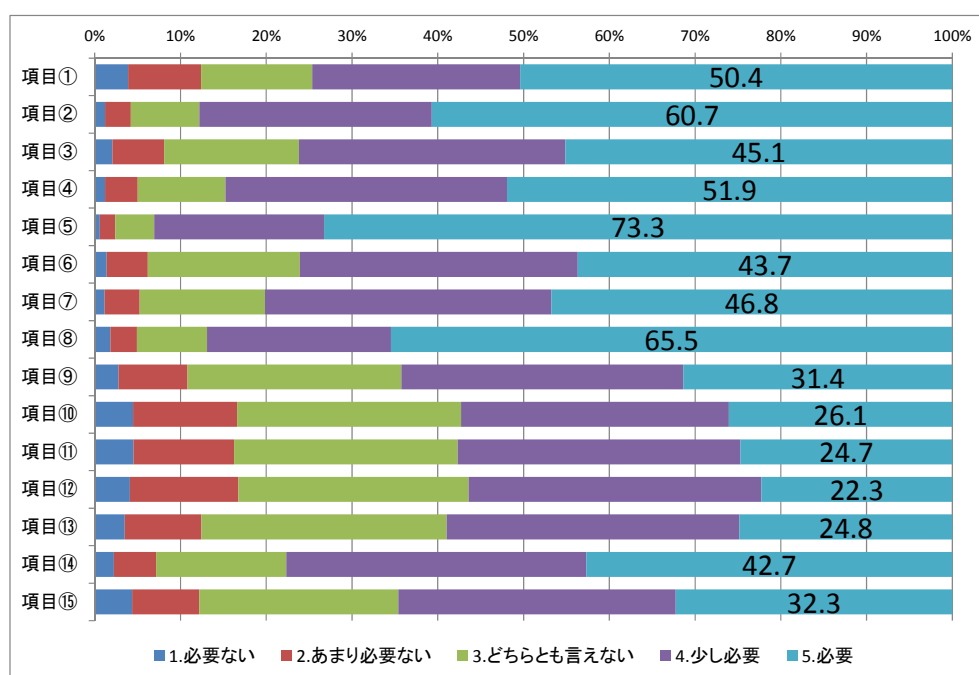


図1 各事項を「学ぶ必要」

## 2) 「実現できている程度」について：現職教員向けの講習内容の検討

表2および図2に、「各事項を『学ぶ必要』」の回答結果を示しました。表中では、最右行に「5.できている」の回答割合の序列（少ない順）を示し、上位（できていない序列）3項目を網掛けで示しています。

上位（できていない序列）3項目は「⑬運動部指導の自己点検・評価の方法」「⑫外部指導者等の協力や連携による指導体制の方法」「④トレーニング計画を考えたり、指導する際の基礎となる科学的知識」でした。これらの内容が現職教員向け講習内容の中核になる可能性があります。

表2 各事項の「実現できている程度」

	1.できていない		2.あまりできていない		3.どちらとも言えない		4.だいたいできている		5.できている		「5」の 少ない順序
	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	
項目①	2.3	51	10.6	235	23.9	531	51.3	1141	12.0	268	12
項目②	1.5	33	9.7	215	27.8	619	50.4	1121	10.6	235	9
項目③	1.8	40	8.1	181	32.5	722	45.9	1020	11.7	259	11
項目④	3.1	69	20.8	463	39.1	869	32.2	716	4.7	105	2
項目⑤	0.6	14	4.4	97	13.3	296	54.1	1203	27.5	612	14
項目⑥	1.6	35	10.8	241	36.0	801	43.3	963	8.2	183	5
項目⑦	1.3	29	9.5	211	32.3	717	46.6	1036	10.3	229	8
項目⑧	0.4	10	2.2	50	10.4	232	40.1	893	46.7	1040	15
項目⑨	1.4	32	8.4	187	39.2	872	41.8	929	9.2	204	7
項目⑩	5.0	111	15.6	346	32.4	721	36.4	810	10.6	235	9
項目⑪	2.5	55	10.4	231	26.7	594	44.4	987	16.1	358	13
項目⑫	8.7	194	20.4	455	38.3	853	25.7	571	6.9	153	3
項目⑬	5.8	128	19.8	440	43.6	969	26.7	595	4.2	93	1
項目⑭	3.6	80	14.9	331	37.8	843	35.3	787	8.4	187	6
項目⑮	7.5	167	20.6	458	37.7	840	26.4	587	7.9	175	4

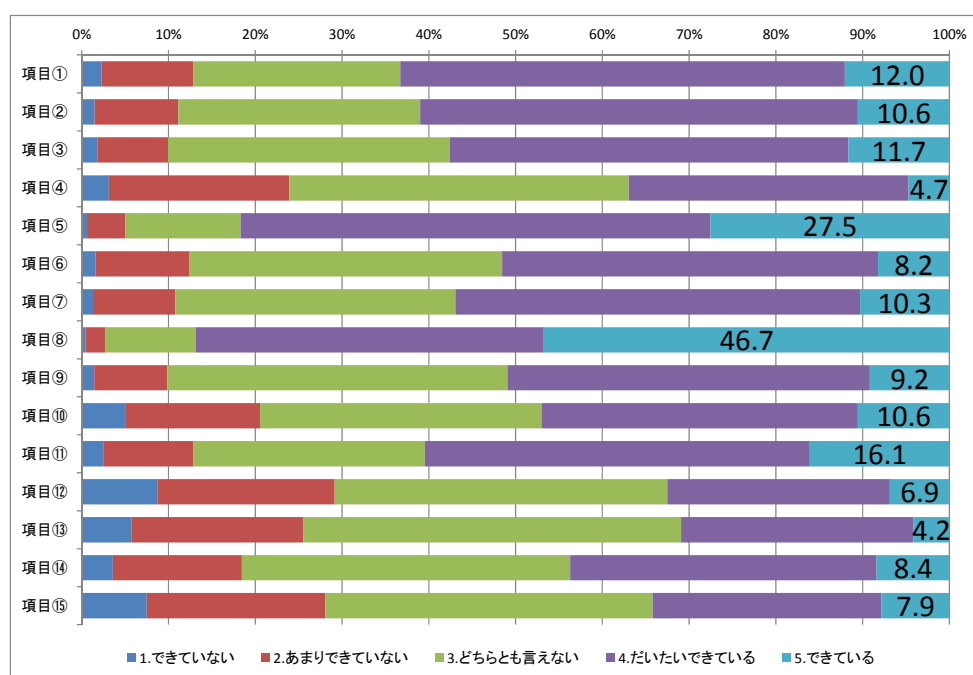


図2 各事項の「実現できている程度」



## 運動部活動の支援と指導者養成に関する研究会

## 開催報告

「学校運動部活動は制度として今後どうあるべきか」について、理念のおよび長期的な視点からの検討を踏まえて、研究者と現職教員が一堂に会し、目下の課題である具体的な教育プログラムについて検討するために本研究会を開催した。本研究会は日本体育学会体罰・暴力根絶特別委員会（阿江美恵子委員長）と共催し、Ⅰ部「運動部と指導者を取り巻く環境と制度」は日本体育学会が主催し、Ⅱ部「指導者育成・研修プログラムの内容と方法」を本委託研究として行った。ここでは、Ⅱ部について報告する。

### 1. 研究会（Ⅱ部）の概要

- (1) 名称：運動部活動の支援と指導者養成に関する研究会
- (2) 主題：「指導者育成・研修プログラムの内容と方法」
- (3) 日時：2014年11月3日(祝・月) Ⅰ部 13:00～15:00、Ⅱ部 15:15～17:15
- (4) 会場：筑波大学東京キャンパス文京校舎 122 講義室
- (5) 発表者：現職教員対象調査結果（佐藤正伸・文教大学）  
運動部指導者養成のための授業科目（土屋裕睦・大阪体育大学）
- (6) コメンテーター：  
佐藤豊（鹿屋体育大学教授）  
菊山直幸（日本中学校体育連盟専務理事）  
小野力（全国高等学校体育連盟会長）
- (7) 司会：小林勝法（文教大学）、阿江美恵子（東京女子体育大学）
- (8) 出席者：日野克博（愛媛大学）  
松元 剛（筑波大学）  
村本和世（日本体育大学）  
柰子耕一（中京大学）  
ほか日本体育学会会員等 19名

### 2. 発表の概要

#### (1) 現職教員対象調査結果（佐藤正伸・文教大学）

本委託事業「学校体育活動における指導の在り方調査研究」（文教大学）で行っている中学校と高等学校の運動部顧問教員を対象にしたアンケート調査結果について概略が報告された。（配付資料は後掲する。また、報告内容は本報告書の前半部分と同じである。）発表の要旨は以下の通りである。

調査期間は2014年9月から10月で、調査対象は中学校1,300校と高等学校700校であった。調査は郵送で行い、有効回答数は2,203人であった。各校2名に回答を依頼したので、有効回答率は55.1%である。

大学での指導者養成プログラムの内容として示した15項目について、「大学で学ぶ必要性がある」との回答が多かったのが、項目2「生徒の発達段階や成長による変化に応じた指導法」と項目5「安全管理や事故防止、危機管理の方法」、項目8「厳しい指導と許され

ない指導の区別」であった。これらについて、回答者が勤務する学校種と年齢、担当教科、指導する種目の経験による傾向を示した。

勤務校全体で「実施できている」との回答が多かったのが、項目 5「安全管理や事故防止、危機管理の方法」、項目 8「厳しい指導と許されない指導の区別」であった。これらについて、回答者が勤務する学校種と年齢、担当教科、指導する種目の経験による傾向を示した。

今後は詳細な分析を行い、運動部の指導者育成・研修プログラムの内容や方法に対する知見を得る。

### (2) 運動部指導者養成のための授業科目の検討（土屋裕睦・大阪体育大学）

日本体育学会大学体育問題特別委員会（小林勝法委員長）では運動部指導のための授業科目の開発に取り組んでおり、授業科目の骨子と実施形態の検討を行っていることが紹介された。（配付資料は後掲する。）発表の要旨は以下の通りである。

まず、運動部指導に関する大学教育の実態を把握するために、全国体育系大学学長・学部長会と日本教育大学協会の協力を得て、同会・協会に加盟している体育学部と教育学部保健体育専攻等を対象にアンケート調査を行った。その結果、次の3点が明らかになった。

- ① 運動部指導者養成のための授業科目を 80%以上が必要と認めた。
- ② 体育系大学ではインターンシップの必要性を 75%が認めた。
- ③ 実技指導よりも、指導理念、運営、事故防止、倫理、コミュニケーションを重視している。

文部科学省の「運動部活動の在り方に関する調査研究報告書」（2013年5月）やスポーツ指導者の資質向上のための有識者会議報告書（2013年7月）などを参考にして、大学体育問題特別委員会では授業科目の骨子案を定めた（詳細は後掲の配付資料を参照されたい）。これにそって、大阪体育大学では「運動部指導実践論」を2015年度に開設する準備を進めている。その具体的内容はシラバス案に示す通りである。2015年度に他の大学でも同様にパイロット的に実施し、統一テキストを作成するなどして、より多くの大学で同様の科目が実施されることを目指している。

### 3. コメント

上記の2つの発表を受けて、3人からコメントがあった。佐藤豊・鹿屋体育大学教授からは、教師教育と現職教育とを連携させ、高い効果を出すために、調査結果を踏まえて、体育学部や教育学部での授業開発を進めることの重要性が指摘された。また、指導者は担当している期間（学校時代）だけでなく、長期的に生徒を育てるという姿勢を持てるかどうか大きな問題であるとも指摘された。試合で結果を出そうとすると生徒の使い捨てに陥る危険もあるので、卒業後もスポーツに親しみ、技能高め続けられるようにするにはどのように指導したら良いかという観点を持たせることが指導者養成・研修プログラムに盛り込まれることが望ましいとの意見であった。指導者の権限が強い団体種目で、暴力や事故等が発生するリスクが高いと思われるので、そのような種目特性にも注意が必要であることも指摘された。そして、体育教員以外も運動部の顧問を務めることが多いことから体育教員以外の優れた指導例を集め、紹介する取り組みの必要性も指摘された。

菊山直幸・日本中学校体育連盟専務理事からは、運動部指導者は非常勤であったり、期

限付きであることも多く、難しい問題を多く抱えているので、運動部指導の教育プログラムには期待しているとのコメントがあった。また、文化部も同様な課題があるので、教職課程に組み込まれることを期待された。学校文化とも深く関係しているので管理職研修に入れるべきだとの意見も述べられた。

小野力・全国高等学校体育連盟会長からは、指導者育成・研修プログラムの作成に当たっては、現場の状況を良く見て欲しいとの意見が述べられた。そして、プログラムの内容としてはコミュニケーション能力に関わることが重要であると指摘された。また、運動部指導の取り組みや風土には地域差が見られるので、県教育委員会と連携すると効果が期待出来るとの指摘があった。

#### 4. 議論

以上の発表とコメントを踏まえて討議したが、参加者からのおもな意見は次の通りである。（発言者の敬称は省略する）

・教職課程では体育が2単位必修になっており、この科目の中に運動部指導に関する内容をどのように盛り込むかが課題である。愛媛大学ではすでに試みているが、多くの大学ではそのようなことはなく、教養体育として多様な内容が開講されている。教養教育としての位置づけと教職科目としての位置づけをどのように考えるべきか検討すべき問題である。（日野克博・愛媛大学）

・教員免許状更新講習として「運動部活動の教育学」を開講している。体罰が繰り返して行われてきた歴史や問題について講ずるほか、ワークショップも行っている。運動部の問題については教育学の教員も関与し、その英知をくみ取っていけると良い。（神谷拓・宮城教育大学）

・指導者育成・研修プログラムを開発するだけでなく、その効果を測定することもあらかじめ設計しておくが良い。（作野誠一・早稲田大学）

以上

# 運動部指導者養成のための授業科目の検討

報告者：土屋裕睦（大阪体育大学）

## 1. はじめに

大学体育問題特別委員会では、委員長：小林勝法（文教大学）のもと、土屋裕睦（大阪体育大学）、阿江美恵子（東京女子体育大学）、松元剛（筑波大学）が担当となって、運動部指導のための授業科目の開発と新たな指導者像の検討を行ってきた。具体的には、体育系大学・学部で運動部指導のための授業科目が開設できるよう、その叩き台となる「授業案」の作成を試みている。同時に、全国体育系大学学長・学部長会議に依頼し、ニーズの調査なども行った、ここではこれらの作業の進捗状況を中間的なとりまとめとして報告する。

## 2. 運動部指導者養成のための授業科目の開発に向けて

### 1) 授業科目の骨子の決定

スポーツ指導における暴力根絶を目指した「運動部指導ガイドライン」「タスクフォース報告書」を精読し、授業科目に含まれるべき内容を検討した。また、文部科学省助成「運動部活動指導者の指導者養成事業」に記載された下記の研修内容、すなわち①学校における運動部活動の意義・運動部活動の運営の在り方、②運動部活動における安全・事故防止対策、③競技特性、子供の発達段階に応じた適切な指導内容・方法（実技を含む）、④運動部活動指導に当たってのコミュニケーション技法、⑤運動部活動指導に当たってのアンガーマネジメント、を構成内容の参考にすることとした。また授業科目の骨子は、「体育・スポーツ学分野における教育の質保証」において、「体育・スポーツ学の援用力（ジェネリックスキル）」に位置づけられた、以下の内容すなわち、①広範な知識と複眼的思考力、②マネジメント力、③危機管理能力、④言語および非言語コミュニケーション力、⑤観察学習力、を含むものとした。

### 2) 授業科目の実施形態の検討

運動部指導者養成のための授業科目を、「体育教員免許＋プラスα」のようなイメージとした。実施形態は、半期 15 コマ 2 単位相当の科目（仮称「運動部指導実践論」、章末資料参照）を想定し、各大学の事情に合わせて、オムニバス実施あるいは E ラーニングが可能となるよう、配慮することとした。また、インターンシップ（運動部指導）実習を推奨することでより体験的な学びにつながることを期待している。

### 3) 体育系大学および教育大学協会に対する調査の実施 (2014.5.30)

上記のような運動部指導者のための授業科目が、各大学のニーズに即しているかを確認するため、全国体育系大学学長・学部長会議等に依頼して、調査を実施した。その結果、以下の点が確認された。

- ① 運動部指導者養成のための授業科目を 80%以上が必要と認めた。
- ② 体育系大学ではインターンシップの必要性を 75%が認めた。
- ③ 実技指導よりも、指導理念、運営、事故防止、倫理、コミュニケーションを重視している。

### 3. 今後の課題 (ご指導いただきたい点)

- ① 授業概要・内容についての周知 (体育学会理事会、他で報告、シンポジウムの開催)
- ② 統一テキスト作成:平成 27 年 4 月完成 (12 月原稿取りまとめ) ⇔ 日本体育協会公認資格との連携
- ③ パイロット大学 (国立+私立; 1~3 大学) での実践:平成 27 年 4 月~9 月
- ④ 効果検証:平成 27 年 9 月~調査実施、教育委員会への協力依頼
- ⑤ 授業内容、授業方法の点検、改善 (実習の位置づけ)
- ⑥ 「絵に描いた餅」にしないための方策 (大学への拡大方策、文科省・日体協との連携)

### 【参考文献】

- 1) 全国体育系大学学長・学部長会 教育の質保証委員会 (2011) 「体育・スポーツ学分野における教育の質保証:参照基準と教育関連調査結果」 (2011 年 10 月)
- 2) 運動部活動の在り方に関する調査研究協力者会議 (2013) 「運動部活動の在り方に関する調査研究報告書:一人一人の生徒が輝く運動部活動を目指して」. 平成 25 年 5 月 27 日
- 3) スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議 (タスクフォース) 報告書 (2013) 「私たちは未来から「スポーツ」を託されているー新しい時代にふさわしいコーチングー」. 平成 25 年 7 月 2 日
- 4) 阿江美恵子 (2014) 大学体育教員の資質向上の新しい取り組み. 体育学会 65 回大会シンポジウム.

大阪体育大学の実施準備例：

科目名	運動部指導実践論 (開設準備中)	担当 教員	オムニバス	履修 年次	4年	単位数	2単位
科目区分	関連科目	必修・選択 の区分	選択	担当教員研究室 同上研究室 TEL		土屋裕陸研究室	
授業の概要	スポーツ指導における暴力・ハラスメントの根絶等を視野に入れ、運動部指導者育成のために新たに設置された科目である。日本体育学会および日本体育協会が作成する共通テキストを用いて、オムニバス授業あるいはEラーニングを導入して実施する。⑫～⑭運動部指導における実践上の問題と対処法では、運動部指導実習(教育実習やインターンシップ実習)、あるいは中体連・高体連、教育委員会の推薦するモデル校での運動部見学をもとに、レポートを作成予定である。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動部指導の意義を理解し、スポーツ指導における暴力・ハラスメントの根絶のための担い手となる。</li> <li>・運動部指導者に必要な資質や能力、思考力、態度を身につける。</li> <li>・運動部指導に関わる実践的な知識、技能を身につける。</li> </ul>						
進め方の	日本体育学会および日本体育協会が作成する共通テキストを用いて、オムニバス授業あるいはEラーニングを導入して実施する。単元によっては、その内容を論じるにふさわしい外部講師が講義を担当する場合がある。						
注意の上	⑫～⑭運動部指導における実践上の問題と対処法では、運動部指導実習(教育実習やインターンシップ実習)、あるいは中体連・高体連、教育委員会の推薦するモデル校での運動部見学をもとに、レポートを作成予定である。						
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 運動部の意義(学校教育における位置づけ、基本理念の徹底、運動の心理社会的意義)</li> <li>2) 運営のあり方(生徒の自主性の尊重、効率的なマネジメント、中体連・高体連との関係)</li> <li>3) 安全、事故防止、救急処置</li> <li>4) 暴力、ハラスメントの根絶、コンプライアンス(心理・社会学的視点、法学的視点)</li> <li>5) 競技特性に応じた指導</li> <li>6) 発育・発達段階に応じた指導</li> <li>7) 性・ジェンダーに配慮した指導</li> <li>8) 運動部指導者に求められる資質・能力:実技指導能力の向上</li> <li>9) 運動部指導者に求められる資質・能力:スポーツ医・科学の活用方法</li> <li>10) 運動部指導者に求められる資質・能力:セルフコントロール(アンガーマネジメントを含む)</li> <li>11) 運動部指導者に求められる資質・能力:コミュニケーションスキルの向上(生徒、保護者、指導者間のコミュニケーション)</li> <li>12) 運動部指導における実践上の問題と対処法:中学校で直面する問題を中心に</li> <li>13) 運動指導における実践上の問題と対処法:高等学校で直面する問題を中心に</li> <li>14) 運動部指導における実践上の問題と対処法:競技力向上とアスリートファーストの両立</li> <li>15) 運動部指導の自己点検・評価の方法</li> </ol>						
時 間 外 習	運動部指導実習(教育実習やインターンシップ実習)、あるいは中体連・高体連、教育委員会の推薦するモデル校での運動部見学をもとに、レポートを作成						
指 書	日本体育学会・日本体育協会が作成する共通テキスト						
成 績 の 準	授業への取り組みのほか、全国の統一検定試験が導入された場合は、その点数を加味する場合がある。						
教 員 絡 へ 方 法	オフィスアワー:月～土曜日の12:10-13:00までにB328研究室まで。 あるいはメール:tsuchia@ouhs.ac.jp						
そ の 他	関連科目の選択授業ではあるが、将来、中学校あるいは高等学校において運動部指導に携わる可能性のある者は、ぜひ履修してほしい。なお、全国統一検定試験において、一定の成績を収めた学生には、資格が与えられる場合がある。						